

文選卷二
二
〔宮内庁書陵部蔵
管見記〕紙背影印・
翻刻並に解説

山崎誠

凡例

一、茲に掲げるのは、次の典籍の現存部分全巻の写真図版、並びにその模写翻刻である（表文書の「管見記」には、既に複製があるので割愛する）。

宮内庁書陵部蔵「管見記」紙背無注本文選卷第二（図書番号 特・一〇六）

一、右頁の写真は「管見記」第百五巻・第百二巻の順序に掲げ、第百二巻に含まれる「白氏文集」巻第一六断巻は割愛した。また第百五巻初行より、第三四行に至る紙面の下半、及び第百二巻の全紙に亘り、裏打が施されて甚だ鮮明に欠けるが、原姿のままを示すこととした。

一、左頁の翻刻は、可能な限り原本の面目を損わざるよう努めたが、単色版である為に、便宜以下の如き処置をとった。

(1) 翻字に当り、別体の漢字・仮名は原本の通りとし、誤写・誤脱・補入・見せ消ちも原本の体裁通りとして、何らの私意も加えていない。但し、音注・付訓に関し、已むなくその位置に若干のずれが生じた場合のあることを断つておく。

(2) 訓点には、墨・朱・角の三種があり、朱のヲコト点と墨仮名は相互に対応する。また墨仮名にはほぼ四筆が区別される。その加点順序は、小林芳規博士の御示教によれば次の通りである。即ち、墨第一筆と朱筆（第一次）、角筆（第二次）、墨第二筆（第三次）、墨第三乃至第四筆（第四次）となる。本稿に於ては、これらを弁別する表記上の手段が無く、且つ加点者もほぼ同人で、加点時期も相接していると推考されるので、墨・朱・角の三筆を区別するに止めた。ヲコト点の星点・漢字声点・音訓合符は朱筆、それ以外の仮名及びヲコト点の線点・鉤点・音訓読符・合点は墨筆の原則が認められるので、この原則に外れるもの、並びに角筆点について、翻字註に於て表示することとした。

(3) 漢字声点は原姿のまま圈点で示し、星点と容易に区別されるようにした。

(4) 破損や切損及び蠹敗の箇所では、痕跡または残画によって解読可能なものに限り、〔 〕に括つて示すという形態上の変更を加えた。

(5) 同様の理由により、解読不能の箇所は、□に括つて表示した。

(6) 前号の場合、九条家本・集注本等に拠り、私に文字を推定した場合、当該文字を小字で□内に填めておくこととした。

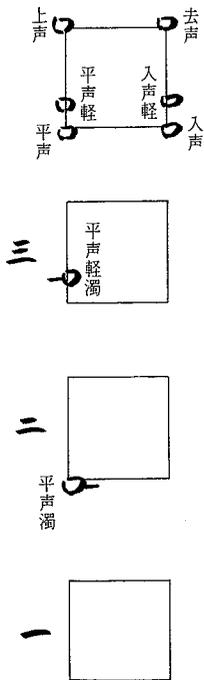
(7) 写真図版と翻字本文との対照の便宜として、各行の頭に通し番号で行数を付した。また紙継ぎの箇所を明示する為に、（第何張）の如き注記を施した。

(8) 翻字本文で正確を期し難き箇所、その他必要と認められる事柄を翻字註に記した。

一、所用の仮名字体表及びヲコト点図（小林芳規博士作成のもの）は、次頁に掲げる通りである。

（付記）本稿作成に際し、昭和五八年七月と翌五九年三月の両度、都合六日間、宮内庁書陵部に於て原本との照合を行った。原本の披閱を願うに際し、平林盛得・森 泉両氏の御芳情を忝くした。篤く感謝申し上げます。

文選卷第二角筆点仮名字体表



ン	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
レ	コ 禾	ラ	ヤ	マ =	ハ	ナ	タ	セ	カ	ア
符疊	キ	リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
コ H	井	リ			ヒ	ニ	千	シ	キ	イ
		ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
		ル	ム	フ		ハ	ク	ウ		
	エ	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
	丑 丑	シ		メ	マ		チ	セ	ケ	エ
ラ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ	
ラ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ	

者乃怒洁服正帶（一）

延王并茶會史（二）龍（三）獻（四）深（五）鑿（六）

擐草屬結飛雲（七）於（八）輪（九）樹（十）翠（十一）羽（十二）

高蓋達良流之（十三）火（十四）燄（十五）燄（十六）倣（十七）容（十八）衛（十九）

六宮（二十）之（二十一）車（二十二）之（二十三）衣（二十四）騰（二十五）而（二十六）帝（二十七）史（二十八）龍（二十九）

鞞（三十）華（三十一）鞞（三十二）金（三十三）鍍（三十四）錫（三十五）方（三十六）鏡（三十七）在（三十八）蘇（三十九）劍（四十）

膺（四十一）玉（四十二）環（四十三）窰（四十四）聲（四十五）鐵（四十六）之（四十七）和（四十八）鈴（四十九）史（五十）

輸（五十一）戴（五十二）鎡（五十三）飛（五十四）鞞（五十五）飛（五十六）鞞（五十七）羽（五十八）蓋（五十九）成（六十）之（六十一）路（六十二）

曲（六十三）空（六十四）倚（六十五）時（六十六）眼（六十七）而（六十八）吹（六十九）引（七十）我（七十一）龍（七十二）旂（七十三）而（七十四）敵（七十五）

纓（七十六）之（七十七）戈（七十八）速（七十九）更（八十）豐（八十一）對（八十二）落（八十三）水（八十四）簾（八十五）車（八十六）吼（八十七）

素（八十八）斬（八十九）並（九十）數（九十一）璆（九十二）珠（九十三）皆（九十四）璽（九十五）璠（九十六）米（九十七）虎（九十八）背（九十九）屋（一百）

奉（一百零一）引（一百零二）既（一百零三）畢（一百零四）先（一百零五）敵（一百零六）之（一百零七）發（一百零八）；
（一百零九）鷹（一百一十）旗（一百一十一）度（一百一十二）

軒（一百一十三）通（一百一十四）帛（一百一十五）備（一百一十六）加（一百一十七）上（一百一十八）里（一百一十九）以（一百二十）九（一百二十一）字（一百二十二）開（一百二十三）輦（一百二十四）車（一百二十五）子（一百二十六）

身（一百二十七）毛（一百二十八）也（一百二十九）蕭（一百三十）勇（一百三十一）夫（一百三十二）騰（一百三十三）騰（一百三十四）醫（一百三十五）辨（一百三十六）井（一百三十七）之（一百三十八）

12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

星選

者乃勦法服勦法服心心完完帶帶紘紘

經經五五符符其其暴暴會會火火龍龍翽翽散散滌滌輝輝

擊擊畢畢屬屬結結飛飛雲雲之之裕裕輅輅樹樹翠翠羽羽之之

集集金金梁梁鈔鈔高高圭圭豈豈逮逮辰辰一一流流之之木木紉紉頰頰愔愔憂憂憂憂以以容容容容齊齊頌頌卷卷門門

六六女女曳曳之之奔奔正正齋齋騰騰躡躡而而沛沛狀狀龍龍

朝朝萃萃賸賸金金鈔鈔鏤鏤錫錫方方左左肅肅鈔鈔

膺膺五五環環室室聲聲鏞鏞和和鈔鈔中中鈔鈔車車又又聲聲又又

九九兄兄輸輸颯颯鏞鏞疏疏飛飛擊擊輕輕羽羽蓋蓋戒戒上上聖聖皆皆皆皆皆皆

集集金金采采劉劉曲曲契契佞佞時時服服而而設設富富咸咸龍龍游游而而敏敏

纓纓之之戈戈迺迺取取農農輿輿輅輅木木屬屬車車尤尤

乘乘軒軒並並駁駁璅璅擊擊重重璅璅朱朱旒旒青青屋屋

奉奉引引既既畢畢先先輅輅乃乃發發寔寔寫寫旗旗皮皮

24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13

奏引既畢先鼓先鼓、奮鷹旗度
 軒通帛備節堂下元字開聲轉
 驛髦被躡馬夫驛髦馬、
 滿梢飛流蘇之醫教然、輕武於
 後陳奏嚴鼓之曹嚴戎士介而
 楊揮載金鉦而時、鼓青道報
 引天行皇陳南之、冒之、辱之、驪
 嚴未出乎城關師已回半未、
 感夏后之致美家恭於、
 命乃孤竹之管畫和、之瑟雷鼓
 洪鼓、六變既畢冠、幸秉翟列
 舞八佾元祀、推每、群望咸稜颯颯
 植燎之突場、去高燥斗黍一神
 敬馨而頌德昨、
 聖主以元吉致後

24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13

射通帛射通帛倚琳倚琳空千九字屬身輕

騎耗被編房夫戴駟駢駢車之

蒲措飛流蘇之駮駮駮武於

後陳奏嚴鼓之嘈嘈嘈嘈士介而

楊搏戴會鉦而達黃鉞清道按

列天行皇陳陳之習習之慮慮驟驟又

殿未出乎城闕布布已已回回半半邪邪一一跡跡又

感夏后之致美致美眾教恭於目神

命乃孤竹之管雲和之璪雷雷鼓

泄鼓泄鼓六變既畢冠華秉翼列

舞介介光祀惟惟惟群望望歲祿不也鈔白白屑屑

檜燔之災燔燔燔致高燥半秦秦神神燬

第三卷

36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25

舞八佾舞八佾祀推拜望威秩舞八佾
 楮燎之焚楮燎之焚塲塲高標并奉神高標并奉神
 歆馨而頌德歆馨而頌德昨昨靈主以元宮靈主以元宮後
 宗上帝於明堂宗上帝於明堂華光去華光去行祀行祀
 辨方倬而匹則辨方倬而匹則之精師而乘之精師而乘
 尊赤氏之未尊赤氏之未先靈先靈懋懋心心
 懷於是春秋懷於是春秋第第四時迭代四時迭代
 逐逐之心之心感於摛感於摛子子招招邑邑香香
 於廟於廟桃桃奉奉並並典典稱稱祀祀物物牲牲
 辯省辯省娶其福娶其福而而毛毛豨豨狗狗之之
 有和羹有和羹滌濯滌濯禋嘉禋嘉禮儀禮儀孔明孔明
 萬彛萬彛奔奔鐘鐘鼗鼗望望靈靈社社皇皇
 芳未頤芳未頤來來饗饗神神具具醉醉上上降降福福
 饗饗及及至至農農祥祥辰辰正正土土膏膏視視

36
35
34
33
32
31
30
29
28
27
26
25

穰穰及至農祥農祥良良心心本本膏膏視視莫莫

考考來來願願來來饗饗神神具具醉醉止止降降福福

萬萬標標齊齊弁弁鐘鐘鼓鼓吹吹笙笙祖祖皇皇

有有和和美美滌滌濯濯靜靜嘉嘉禮禮儀儀孔孔明明

鑾鑾省省設設其其福福衡衡毛毛白白毳毳毼毼毳毳

善善作作約約禱禱於於廟廟袞袞舉舉者者嘗嘗適適禴禴祀祀物物牲牲

羨羨愛愛之之心心感感物物增增思思躬躬追追養養滫滫水水

櫟櫟是是春春秋秋改改節節四四時時送送代代

尊尊赤赤氏氏之之未未光光四四靈靈懋懋而而光光

譏譏方方位位而而空空則則五五精精師師而而來來摧摧沮沮

忘忘上帝上帝於於明明堂堂推推光光武武以以作作配配位位

馨馨馨馨而而願願德德昨昨靈靈主主以以之之吉吉然然後後

48
47
46
45
44
43
42
41
40
39
38
37

起乘，寫輅而駕倉龍，介駸聞駸。

劉祖躬祖躬推於天田，猶帝藉之。

千畝供禘，郊之深感，免致思乎。

勤勤已兆，人勸於墾場，減慙力以。

松松籽春日載，陽陽合射辟，雖故葉。

誤慶官懸金鑄鼓，路路一鼓樹。

羽撞於時，倘物之有其密，伯。

索起而相儀，后履坐而為一振丈。

侯制侯制五心，設設三之服司，控打未既。

設儲子廣，庭於身皇，興興因因軍軍。

於東階，以須消，啓明掃，朝慶登。

天光於扶來，天子乃撫撫五輅，時乘。

徒作鼎
墨題

既未及或為
非也
諸前幸為
也

卷之四
卷之五
卷之六
卷之七
卷之八
卷之九
卷之十

誠信乎廣遠才長皇與陽皇肇
 於東階以頌消啓明掃朝震登
 天光於扶桑天子乃撫王輅時乘
 六龍發鯨魚鏗華鐘大而爾節
 風石陪棊榻提運衡徐至於射
 宮禮事展樂物具王夏闋駟
 虞奏史拾既次彫弓斯敷達於
 餘胤暮春昭誠心以遠論進明
 德而崇業凝餐養之貪慈仁
 風行而外流誼方激而遐日月會
 於龍猶極人事之勞夜因休力
 以息動致惟忻於春酒執鸞
 乃以祖割奉醜豆於團叟降至
 尊公訓恭送迎拜乎三壽敬慎
 哦儀亦人不偷我得嘉賓其樂

59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48

天光於扶桑天子乃極也時乘也

六龍發鯨魚鑿犂鐘大丙河鼓也

風右厲葉搗搜運也衛徐至於射也

宮禮事展樂物具王夏闕也

屢奏來拾也既也馳也斯也敷也達也

餘萌暮春昭誠心以遠論進明也

德而崇業也漿也鬻也之貪怒仁也

風行而外流也誼也方激也而遐也日月也層也

於龍也提也人也守也之勢也救也因休也力也

以息勤也致也推折也於春酒執也寧也

乃以祖宮奉聽豆於國史降也至也

尊以訓恭送迎拜乎三爵敬也填也

70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59

以祖割奉鷄豆於園叟降至
 尊公訓恭送迎拜乎三壽敬慎
 威儀亦人不偷我有嘉賓其樂
 愉聲教布濩瀛溢天區文
 德既昭武節具宣三農之隙
 曜威中原歲惟仲冬大閱西園
 虞人掌馬先期戒事志率百
 禽鳩諸靈固數之所同是謂告備
 乃徠小我樞輦軒中四牡既佳
 閑戈矛岩林牙旗纛紛迤上林結
 徒營叙和樹表司鐸授鉦坐作進
 退第以軍聲三令五申示戮斬牲
 陳師鞠旅教達禁成火烈鼻罍
 武士星敷鸞鵠與飄其張鷹牙

70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59

尊以訓恭送迎拜乎三壽敬慎

政儀示人不偷我其有嘉賓其樂

愉聲敷布濂靡溢天區文

德既昭武節身宣三農之躋行

曜破中原歲推仲冬大閱西園

農大嘗焉先期裁事必率百

禽鳩諸靈園讎之所同且謂苦審

乃鄉小我極軒中田四牲既告且

開戈矛若林牙旗續紛送上林結

後營叙和樹表司鐸授鉦坐作進

退席必畢聲三令五申示戮斬牲

陳師鞠號教達禁成水烈具樂

樂

營後為

包在堂

退第以軍廣三令五申亦勅斬牲
 陳師鞠孫教達禁成火烈鼻舉
 武士呈數鵝鶴與飄其張翼舒
 輒塵掩逗速疾匪徐取不詭遇
 射不翦毛外敵六禽恃膳四膏馬
 足未極輿徒不勞成禮三敬解
 棄故藤不窮樂以訓儉不殫物
 以昭仁慕天乙之施罔因敬祝
 以懷巨纒拒伯之滑陽失能罷高
 獲入澤曼昆蟲威振八寓好樂無
 荒况文武薄狩干教既頌焉
 岐陽之蒐又何足數今乃卒歲
 令大雉驅除群屬方相事鉞至觀
 標茨標子萬童丹首玄獻桃

82 五音震五音震標拔標拔狼子狼子萬童萬童丹首丹首玄數玄數排排
 81 大鏘駭大鏘駭除除群劇群劇方相方相垂劍垂劍空現空現
 80 坡陽之蕙坡陽之蕙不何不何定數定數尔乃卒歲尔乃卒歲
 79 才至才至北崇北崇先文武先文武薄將薄將于教于教既瑱既瑱焉焉
 78 夫豈見獲夫豈見獲人澤浸人澤浸昆蟲昆蟲戚振戚振八寓八寓好煉好煉無無
 77 以懷以懷巨微巨微姬伯姬伯之渭陽之渭陽失簞失簞叢而叢而
 76 以望以望仁慕仁慕天乙天乙之施之施恩恩因教因教祝祝之之
 75 榮放榮放麟麟不窮不窮樂樂以訓以訓微微不彈物不彈物
 74 足未拯足未拯輿輿使使不勞不勞成禮成禮二致二致解解
 73 射射不翦不翦毛毛外敵外敵不禽不禽時騰時騰四骨馬四骨馬
 72 輒雲掩輒雲掩迅速迅速疾疾匿徐匿徐叙叙不詭不詭遇遇
 71 武王皇敷武王皇敷鵠鵠駕駕魚魚躍躍其其旅旅翼翼舒舒居居

陽文和廢物時育卜心考祥然
 鬼京室密清內有不建於是陰
 對將蒙善目察區取司執遺
 方靈作搜守以懽爵票神荼副
 光八靈為之震情况敗或與單
 島魘與凶象之瘡野仲而鐵遊
 耕文於清冷弱女魁於神黃殘
 蟪魅散徧狂軒蜂地腦方良凶
 於四爾然後凌天池絕飛梁精
 痛必斃煙火馳而星流逐赤覆
 孤隸穴所發無息飛礮而散剛
 標剝樞子萬童丹首玄割桃
 大僮駭除群屬方相率鉞至觀
 外來興巡平伏獄勸稼穡於原

女音震 標於 振子萬重丹首玄叢

列棘矢所發無鼻飛礫

瘳物駁煌皇而星流逐赤痕

四商然後凌天池絕飛梁相發

羣鬼彌眩散獨狂軒踳地

紺文於清濁女躑躅神黃後黃

決空野屬牆與囚象之 瘞野伸而鐵持子厲

光八靈為之震懼深跼與畢

方度翔作楫子公樹蘭藥神荼副

馬堇操致毒即察區陳司執遺

鬼京室密清因有不驥於曼陰

陽文和廢物時首仁恂若祥祭然

93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82

鬼京室密清因有不懸於是陰
 陽文和庶物時育仁孝祥終然
 允濟乘輿巡平位嶽勸稼穡於原
 陸同衛律而壹朝豐齋急舒於寒
 燠省幽明以黜陟乃及諦而回復望
 先帝之舊墟慨長思而懷古俟
 闔風而西思致恭祀乎高祖既春
 蒞以發土啓諸壑於渚之文秋警以
 坂成觀豐年之受祿嘉田暖之匪
 解勤致費乎九苞左瞰湯谷右
 睨玄圃眇天未以遠明規萬世而
 大舉旦歸來以釋勞膺多福以
 女念懿集瑞命倫致嘉祥園林民
 之馴震擾澤馬與騰黃鳴女林

陽羨和庶物時育ト俗者祥發

乞涼棄輿ト進乎ト欲歛ト勸稼穡ト於原

陸同衡律而壹軌ト豐腐ト急舒ト於寒ト

澳ト有ト明ト以ト黜ト破ト乃ト又ト旃ト而ト回ト望ト

先帝之舊墟ト掘長恩ト西墟ト古侯ト

脚ト同ト異ト閩風而西遼ト致恭祀ト乎高祖ト既春

遊ト發ト生ト啓ト諸ト勢ト於ト潛ト尸ト又ト秋ト嘗ト以ト鑿ト考ト

地ト也ト根ト成ト觀ト豐年ト之ト父ト徐ト嘉ト由ト峻ト之ト匪ト

履ト履ト又ト射ト勤ト致ト費ト坐ト九ト苞ト左ト瞰ト湯ト谷ト右ト

晚ト玄ト圃ト眺ト天ト末ト以ト遠ト期ト規ト萬ト世ト而ト來ト善ト作ト寇

火ト草ト以ト歸ト來ト以ト釋ト勞ト膺ト多ト福ト以

火ト念ト念ト集ト瑞ト命ト徧ト致ト嘉ト祥ト園ト林ト以

104
103
102
101
100
99
98
97
96
95
94
93

115 114 113 112 111 110 109 108 107 106 105 104

聊云匪見天_之運_其其_夫
 大業且歸來以釋勞膺多福以
 女禽總集瑞命偕致嘉祥園林日
 之駟虜擾濁馬與騰黃鳴女林
 之鸞鳥舞丹穴之鳳皇殖華平
 於春圃豐朱草於中唐惠風廣
 被澤洎出荒北奠_下零南_諸越_事
 西巴大秦東過樂浪重古人之九譯
 會稽首而來王是故論其逸邑
 易京則同規斗殿殿改奢即儉則
 合美乎斯干益封降禪則齊德半
 黃軒為無為亭無亭永有人以
 孔安蓮節儉尚素襟思仲尼之克
 已履老氏之常足將使心不亂所
 在固不見其可欲賤辱家簡殊至

115 114 113 112 111 110 109 108 107 106 105 104

女念女場總集瑞命格致嘉祥園林氏園林氏

之駒農擾濁馬與騰黃鳴女妹

之鸞鳥丹穴之鳳皇翟率率

於春圃豐采卓於中唐惠風廣姜在門

被澤自物荒北髮丁零南謝越嘗

西巨大秦東過樂浪重負文之九譯驛

禽經首而來去是故論其遷邑

易京則同規半展披改者即檢則

含美乎斯子登射降禪非齊德乎

黃軒為無事永有以

孔安遷節檢尚素操思仲尼之苑苑

已履老氏之常是將使心不亂所

127 126 125 124 123 122 121 120 119 118 117 116

已履老氏之常足將使心不亂研
 在目不見其可欲職辱家簡珠至
 藏金於山根壁於谷翡翠不裂瑤
 璵不羨所貴惟賢所寶惟較人去
 未而反本感懷忠而抱經干斯之
 時海內同悅曰吁漢帝之德集其
 禱而蓋莫美為難時也故曠甘
 不覲唯我后能殖之以至和方將
 敷諸朝階然則道胡不懷化胡
 不系聲與風翔翠從雲遊萬物
 我賴亦又何求德寓天慶輝
 烈光燭照三王之遜武誰謂遲
 而長驅踵三皇之遐武誰謂遲
 而不能屬東京之轍未整值余

127 126 125 124 123 122 121 120 119 118 117 116

在自不見其可欲見其。厚蒙簡珠玉為集樂子。

藏金於山。柝壁於谷。翡翠不至。珠玕為樂子。

楚南瑤瑤不接所貴。推賢所寶。惟穀穀去。

未而反本。減懷忠而抱自。趨予斯之苔自。登自。

時海內同悅。曰。漢帝之德之推。

禮而美。蓋實矣。為難難。時也。故曠曠。

不覲。唯我尚能能。頌頌。至至。和和。方將方將。

數諸朝階。然則道道。胡胡。不壞不壞。也也。胡胡。

不采聲采聲。與風與風。翔翔。澤澤。從雲從雲。遊萬物遊萬物。

我賴我賴。亦亦。不不。何何。求德求德。當當。之之。天天。震震。燁燁。

烈光燭烈光燭。兩兩。三三。王王。之之。趣趣。數數。五五。帝帝。

而長驅而長驅。踵踵。三三。皇皇。之之。還還。武武。誰誰。謂謂。駕駕。還還。

139 138 137 136 135 134 133 132 131 130 129 128

而長驅壇二皇之選武誰謂駕遲
 而不能屬東京之轅未聲值余
 有大馬之疾不能究其詳故粗
 為實言其梗概如此若乃流道
 忘及心故不覺螺絲節後離其
 慮一言驚於畏國我未嘗也傳
 親之智守不假器况纂帝業而
 輕天位瞻望二祖麻庸孔棘常翹
 以危懼若赤奔而無建白龍
 魚眼見困豫且雖萬乘之無懼
 猶休戒於一夫終日不離其輜
 重獨微行其焉如夫君人有難
 曠塞耳車中不內頭珮公制容
 臺公節遂行不復王駕不亂失

128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139

不能屬東原之懿未聲價聲價余
 有犬馬之疾不能究其詳故粗粗
 為賓言其標既既如此若乃添道續
 忘交心交心放放不覺樂樂無節節後離其會會離門
 憾憾下言下言幾於衰國衰國我未興我未興也也懼懼切
 批批之智守智守不假不假啗啗况况纂纂帝業而帝業而
 輕天位輕天位瞻望二祖瞻望二祖廉庸孔謀廉庸孔謀常翔
 以以双危懼双危懼若乘奔而無若乘奔而無靈靈白龍
 魚服見魚服見因因鞶鞶且雖萬一且雖萬一無之無懼無之無懼
 善善年年保猶保猶休裁於一夫休裁於一夫終日不離其軸終日不離其軸
 重獨重獨徵行其馮徵行其馮如夫君父者如夫君父者豈豈以
 續塞耳車中不內續塞耳車中不內頤頤珮珮以制容以制容

續塞耳車中不內頑珮頑珮制容
 臺公節途行不變王駕不亂步
 却走馬於棄車何惜驛裏飛
 免方其用財取物常畏生類之
 殛賦政任侵常畏人力盡取之
 以道用之以時山無撓藪田不
 腹胎道木繁廕鳥獸早滋人忘
 其勞樂輸其財故百姓同於鏡
 祈上下於其雍熙治愚素畜人
 心固結執義願主夫懷真節志
 奔扈之干命怨皇統之見贊玄
 謀設而陰行合二九而成譎登
 聖皇撥天階章漢祚之有秩若
 此故王業可樂焉今吾子苟好

151 150 149 148 147 146 145 144 143 142 141 140

變遷

靈公鄙達鄙夷也行不變玉如如不亂步步

却走馬於囊車囊車何惜惜裏與飛飛

免方其用財取物常畏畏生類之之

亦亦賦賦任任常畏畏人力盡取之之

又道用之之以時時山無椹椹藤田藤田大大

集案變變廢胎胎學水學水繁繁應應皇皇勳勳卑卑滋滋入入心心

集案變變其勞樂輸其財故百姓同於饒饒

行上下行其雍熙浩恩浩恩素商素商大大

心固結結執義執義願主夫懷真節節念念義義

女女處處之于命命怨皇統之見見贊贊女女

謀設而陰行陰行含二尤含二尤而成而成譎譎登登

聖皇於天階聖皇尊尊漢祚漢祚之有被被若若

162 161 160 159 158 157 156 155 154 153 152 151

皇恩之平命怨皇物之具積玄
 謀設而陰行合二九而成謫登
 聖皇於天階章漢祚之有祿若
 此故王業可樂焉今吾子尚好
 勦人以偷樂忘人怨之為仇好
 彈物以窮寵忘下叛而生憂夫
 水所以載舟之所以覆舟堅水
 作於履霜尋木起於蘄藪昧且
 丕顯後世循急况初制於甚恭
 服者焉能改裁故相如壯上林
 之觀揚雄駟羽櫛之碎雖象以
 價牆填塹亂以救其罌果卒無
 補于風規祇以貽其冠尤臣濟
 者以凌若忘經國之長基故

神未風規（神未風規）祇以昭具冠尤臣濟（昭具冠尤臣濟）
 者以凌若忘經國之長基故（凌若忘經國之長基故）
 函吞擊折於東西朝顛而莫持（函吞擊折於東西朝顛而莫持）
 也凡人心是所學體女所冒範（凡人心是所學體女所冒範）
 肆不知其臭勸其所先入咸池不（肆不知其臭勸其所先入咸池不）
 齊度於擗咬而眾聽者惑疑能（齊度於擗咬而眾聽者惑疑能）
 不惑者其唯子野乎客既醉未（不惑者其唯子野乎客既醉未）
 道能於文誼勸德畏或喜懼交（道能於文誼勸德畏或喜懼交）
 無惘然若醒朝罷夕棄氣禘（無惘然若醒朝罷夕棄氣禘）
 之為者忘其所以為諉失其（之為者忘其所以為諉失其）
 所以為卒良久乃言日斷裁（所以為卒良久乃言日斷裁）
 金雀覆非而逐迷幸見指南於（金雀覆非而逐迷幸見指南於）
 長乎若僕所聞華而不實先（長乎若僕所聞華而不實先）
 出之言言而有敬歎夫直鐵奇（出之言言而有敬歎夫直鐵奇）

173 172 171 170 169 168 167 166 165 164 163 162

吾子若嫌所聞華而不實先

余斗習非而遂迷幸見指而於

所以為夸良文乃言目鄙哉

之為者忌其所以為談失其

爭慚然若駭朝思多秦氣

道鏡於文詞勸德畏欲喜懼矣

不惑者其唯子野乎客既醉於大

齊度於擢蹶而衆聽者惑疑能

肆不知其臆駭其所先入咸池不

也凡人心曷所寧字體安研習覽

函各擊拆於東西朝顛而莫持

審以凌君忘經國之長其基故

余嘗非而逐迷幸見拍南於
 君子若葉平闡華而不實先
 士之言信而有微鄙夫宣識而
 今而後乃知大漢之德馨感在於
 此首常恨三墳五曲既汲仰不
 瞻炎帝之魁之美得聞先生之
 餘論則大庭氏何以尚茲豈雖不
 敏庶斯達矣
 南都賦一首 張平子
 於頭樂都既麗且康陪京之南
 居漢之陽割周楚之豐壤碎
 荆豫而為壇體奕控開敬躬
 其難詳余具地勢則武關開
 具西桐攬得東流滄浪而為

陽
注

兼務而為擗體夾撐開敵絞郁
 且難許余具地勢則武關開
 具西桐栢得耳東流滄浪而為
 隍廓方城以為孀湯谷涌其後
 青水邊其勾推淮引端三方豈
 通具寶利玳埵則金采玉璫隨
 珠夜光銅錫鉛錯楛望流黃
 緣碧紫菜青攢丹粟太一餘糧
 中黃蒙王松子神散赤靈解角
 赫文揚光於清冷之剡遊女弄
 珠於漢擘之曲其山則崆峒嶂
 喝嘯些嶽刺峭嶺崇崖鬼獻
 吃嚙幽谷嚼岑夏含霜雪或
 岩嵯而纏駮或豁尔而中絕藹
 冠之且急天府元規平聖虎

吃煙逃谷嶮岑夏含霜雪或
岩嶭而鑿巖或豁尔而中宛鞠
鏡其隱天俯而觀平雲霓
若夫天封大狐列仙之陳上平
所而曠蕩下嶮籠而崎嶇坂塹
巖岸而成巖窾鑿錯衆而巖紆
之芳茵養生其隈玉膏密溢
流其隈恨偷無以侈閑風弗能
踰具木則樞松檉搜檉栢扭檉
楓柙櫛櫛帝女之素捐櫛檉櫛
挾柙櫛櫛結根棘本香條煙煖
布綠華之華敷華繁之華
玄靈舍而重墜谷風起而增
東橫芝蔞駢青真羊曠本自謂

布疎葉之華（方九）、敷華葉之衰（壽）
 玄雲含而重陰谷風起而增（九）
 衰橫之繁駢青實半填香（六）香謂（六）
 梢鬱森蓊（七）而刺天席豹黃（七）
 態遊其下毅攬傑徒戲具巖（七）
 豪鳥嶽鸞鸞翔其上瞻後飛獨（七）
 棲且聞其竹則鍾龍並豈好徐（七）
 斡莽緣桁瓦澶漫陸離阿（七）
 邠背昔風廉雲披介具川瀆則（七）
 洩灑灑盡茂源巖穴潛蓋洞（七）
 出沒淫濫滴有滂滂汗淋漓（七）
 溢溢括趣欲削馳風疾流湍飲（七）
 灑砾八朝軋長輸遠逝浪屢滅（七）
 洞其水懸則有鸞鸞鳴地潛（七）

242 241 240 239 238 237 236 235 234 233 232 231

興西漢滌獨秦汝泄則曠為漑（注）
 為陸冬稼夏穡隨時不熟其（注）
 原野則有素沫漑鉞麥種（注）
 菜百穀蕃蓋翼之興之若其（注）
 園圃則有藜藿藜荷諸蔬（注）
 豈藩蒨芋底乃有櫻梅山（注）
 插換桃李梨栗栲葉若插穰橙欬（注）
 橘其香草則有檮荔蔗若穠（注）
 並蓀莖長暎嬾翳蔚舍奇味芬（注）
 若其廚膳則有華鄉重稻灌掌（注）
 香批歸鷹鳴鴉黃稻鱸奠以（注）
 為艾藥醜眩滋味百種千名春（注）
 介夏荀秋韭（注）首換裝禁薑（注）
 拂徹糧醒酒則九醞甘醴十旬（注）

254 253 252 251 250 249 248 247 246 245 244 243

个夏荀秋非之青樓裝紫蓋
 拂徹醴醒酒則九醞甘醴十旬之
 無清醪敬佳寸流琥珀若萍其之
 酬不奕醉而不醒及其紅宗綵之
 旋約之詞送膏以遠送朋嘉賓之
 是將捐讓而昇寧干蘭室珠之
 考琅玕充溢圖方獸瑤押捲金之
 銀珠珠侍者盡媚中辨辨明之
 被服雜錯履躡華英保才膺之
 敬受爵傳聽敵嘲既交師禮无之
 連彈琴撒菴流風徘徊清角之
 羨散聽者增哀容賦解言歸之
 玉簫露未晞接歡盡於日夜之
 之儀於是暮春之

254
253
252
251
250
249
248
247
246
245
244
243

玉稱露未晞晞接 歡燕於日夜

菱鏡聽者增哀哀客賦賦言歸言歸

擲擲彈彈彈彈琴琴撒撒流流淪淪能能個個清清角角

敬敬受受爵爵賜賜獻獻朝朝既既文文師師禮禮元元

假假髮髮被被服服雜雜錯錯履履躡躡華華英英傑傑才才齊齊

銀琳琳那那侍侍者者靈靈姬姬巾巾帷帷解解明明

圓 著著琅琅牙牙充充溢溢圖圖方方厭厭瑋瑋押押掩掩金金

長長持持擘擘讓讓而而昇昇宴宴于于蘭蘭堂堂珠珠

棧棧初初祠祠忘忘嘗嘗以以速速明明嘉嘉賓賓

酬酬不不爽爽酬酬而而不不醒醒及及其其宗宗縱縱

無無清清醪醪敬敬淫淫物物浮浮以以鐵鐵若若淨淨其其

拂拂微微擅擅腥腥潤潤則則九九醞醞甘甘醴醴十十旬旬

259 258 257 256 255 254



259 258 257 256 255 254

主攝露未晞接歡燕於日夜

終凱樂之冷儻於晨暮春之

禱元邑之辰方輒齋斬後于

陽濱未推連經曜野映雲男

女妓眼路驛續少致飾程遊野

子云 腰經便娟微眺流睨緜眉連捲

(以上管見記卷百五卷紙背)

271

270

269

268

267

266

265

264

263

262

261

260

於是商僅管乃不其女生言那
 兮起歌舞與鸞飛兮蘭泉者
 袖袖察繞而滿庭羅綺
 而容與翩翩之其若絕
 而復舉翹遠逐歌聲
 九秋之增傷怨西京之折葉
 琴筆吹笙更為新聲
 吟鷓鴣哀鳴坐者博秋
 傷精於足群士故逐馳於沙
 塲驟驟齊鑿黃間機張之逆
 奮飛鏃利毫芒俯之貫躬
 仲落雙鶴與不及窺鳥不暇
 翔介乃撫輕舟兮浮清池亂北

271 270 269 268 267 266 265 264 263 262 261 260

星履

於是齊僮唱兮列趙女坐南歌

兮起鄖舞白鶴飛兮隨雲曳緒

循袖察蹠而滿庭羅鞞躡時

而容與翩緜其若絕眼料墜

而復舉翹遙遠一返蹠躡躑躅

九秋之增傷怨西京之打棗

禪筭吹笙更為新聲寘婦悲

吟鴟鵂哀鳴坐者悽秋滿瓊

傷精於是群士放逐馳於沙

場駭駿齊鑊黃間機張早逆

蓬蒿颯打毫世俯之貫動鑣

仰落雙鷁莫不及窳鳥不眠

仰落雙鷁與不及窺鳥不
 翔介乃輕舟兮浮清池亂
 者兮揭南崖丈室講者聊
 陽侯洗兮掩鳥驚是水滌
 翔翮單屐龍兮拂妓舞是
 既走昏樂者未嘗坑驛今
 背迴塘車雷震而風厲馬
 而龍驤多暮會騎其樂難
 遊觀之好耳目之娛未觀
 也烏之稱譽夫南陽者真
 漢之舊都者也遠世則劉
 康龍監觀魯縣而來遯秦
 河追孝立唐祠牙荒山固
 於夏葉終三代而始蓄非

283 282 281 280 279 278 277 276 275 274 273 272

卷之三

翔余乃極舟兮浮清池亂北
 渚兮揭南崖協音上九灑灑兮松客寓牙
 陽侯浩兮掩鳥鷺退水豹兮
 蜩螗蟬憂龍兮林披螭於具白
 既遠旨樂者未忘故羅命加兮
 背迴塘車雷震而風厲馬蹶趨
 而龍驤夕暮而歸其樂難忘斯乃
 遊觀之好耳目之娛未覩其美者
 也焉受梅梁臺太南陽者真所謂
 漢之舊都者也遠世則劉表
 康寵監視魯縣而來遷奉先帝
 而退考立唐祠于荒山固靈糧

西追孝立唐祠于堯山固靈根
 於夏葉終三代而始蕃非純德
 之宏圖孰能發而奮薄道則并
 饑思故匪屑垂寧本長久之
 元樂應江湘而北迴曜春光於
 白水會九世而飛茶案茲都之
 和銀天也百宰並才異日
 室則有園廬舊意隆崇本
 翔房禮以華廩陳閣燬其相蔽
 聖皇之所適逢靈祐本所保環章
 隄壽以青益清唐爾本皇
 祖歆而降福孫萬祀而無衰帝
 王威具檀美本新南音以頌
 且其君子弘懿明哲允本益良

295 294 293 292 291 290 289 288 287 286 285 284

於夏禹終三代而始蕃非德
 之宏圖孰能揆而慶海近則考
 侯思故亟居速寧長嶽之
 元樂。應江湘而北巡。曜朱光於
 白水會九世而飛。崇密茲都之
 神偉路天心而寤靈於是宮
 室則有園廡。層宇隆崇。心
 鄉房總以華麗。連閣燿其相燿也
 聖皇之所逍遙。靈祇之所保章
 陵鬱以青志清。廣廟以敬皇
 祖歌而降福。禘萬祀而無衰帝
 王感其禮美。詠南音以頌

307 306 305 304 303 302 301 300 299 298 297 296

王威威具具檀美美詠詠南音南音以以頌頌懷懷
 且其君子私私懿懿明明極極允允於於憂憂良良
 欲欲止止可可則則出出言言有有講講進進退退屈屈
 申申與與時時抑抑揚揚方方今今天天地地之之靡靡刺刺
 帝帝亂亂其其政政待待復復肆肆虐虐真真革革今今
 之之教教也也爾爾具具則則有有謀謀臣臣武武將將擢擢
 慶慶執執極極破破堅堅摧摧對對排排捷捷躡躡不不
 豐豐踰踰咸咸陽陽高高祖祖時時其其塗塗築築尤尤
 武武攬攬其其英英曼曼公公開開門門又又距距漢漢德德
 遠遠周周跡跡之之疇疇據據斷斷足足焉焉先先王王
 轍轍循循紳紳之之倫倫經經論論亂亂典典賦賦納納人人言言
 也也公公朝朝無無闕闕故故風風烈烈昭昭宣宣於於是是
 乎乎見見過過肩肩毒毒躬躬背背之之史史籒籒之之然然

307 306 305 304 303 302 301 300 299 298 297 296

且其君子弘懿明哲允恭溫良

發止可則出言有章進退屈

申與時^{聖賢之象也}相協^{應其時也}方今天地^{惟維}

帝亂其政材狼肆虐真之革伸

之秋也^{聖賢之象也}爾其則有謀臣武將擢字

宸執猛破堅摧^{聖賢之象也}對^{聖賢之象也}

靈鑿咸陽高祖^{聖賢之象也}階^{聖賢之象也}其塗其光^{聖賢之象也}

式攬其美是以開明^{聖賢之象也}又踰漢德

久長也^{聖賢之象也}及其去危乘^{聖賢之象也}安視良用

遼周跡之曠^{聖賢之象也}據斷^{聖賢之象也}足為^{聖賢之象也}以佐王

轍^{聖賢之象也}縉紳之倫^{聖賢之象也}經^{聖賢之象也}論^{聖賢之象也}訓^{聖賢之象也}典^{聖賢之象也}賦^{聖賢之象也}納^{聖賢之象也}公言

是以朝無闕政風烈^{聖賢之象也}眇^{聖賢之象也}宣於是

卷之五

319 318 317 316 315 314 313 312 311 310 309 308

志朝無開院風刃昭宣於皇
 平兒邁肩毒船背之曉鑄然
 被誇談者喟然相與歌曰聖翠
 華子儀蓬蓬大帝兮排
 龍兮駭振錄鸞兮京師
 萬葉兮能個按奔路兮來歸
 豈不思天子南巡之辭有哉
 遂作頌曰皇祖止焉光武之
 焉懷彼河洛統四海兮平枝
 百世位天子焉永世克恭陳采
 輝焉真人南巡觀舊里焉
 三獻賦序 左天冲
 目詩人之賦麗公則狂國目舉者

319 318 317 316 315 314 313 312 311 310 309 308

筆本選

平曰平齒齒肩肩壽壽與與背背之之嬰嬰鰭鰭之之然然焉焉
世兼曹無文才
被被黃黃駭駭者者唱唱嬰嬰相相與與歌歌曰曰望望翠翠！
中兒化
萃萃兮兮遊遊楚楚遠遠太太常常兮兮疎疎野野馳馳驅驅！
若無
龍龍兮兮擊擊心心振振鉢鉢驚驚兮兮京京師師檢檢！
皇義
萬萬葉葉兮兮非非細細按按平平路路兮兮來來歸歸！
女從
豈豈不不思思天天子子南南巡巡之之僻僻者者哉哉！
中
遂遂作作頌頌曰曰皇皇祖祖止止焉焉光光武武起起！
中
焉焉據據彼彼河河洛洛統統四四海海焉焉本本枝枝！
中
百百世世恆恆禾禾子子焉焉永永世世克克懷懷矣矣！
中
梓梓焉焉真真人人南南巡巡胡胡蕭蕭里里焉焉
不曹家作非
二二都都賦賦序序 左左太太冲冲
蓋蓋詩詩有有六六義義焉焉其其二二曰曰賦賦揚揚雄雄

331 330 329 328 327 326 325 324 323 322 321 320

日詩人之賦六朝與班固曰賦者
 古詩之流也先王采焉以觀土
 風見翠竹則知衛也淇澳之
 產見在其厥屋則知秦野西戎之
 宅故能居遠而辨八方炊相如賦
 山亦而引崖猶是物左賦甘泉
 而陳玉樹青翠斑固賦西都而數
 出此目張衡賦西京而述以蓬瀛者
 綴稱瓊瑤為潤色若斯之類
 匪言于茲考之草木則非其
 爍校之神物則出非其所采詞
 則易為漆銘於義則虛而無
 徵且夫王虎無牆雖實非用後

331 330 329 328 327 326 325 324 323 322 321 320

曰詩人之賦梁靈公則班固目賦者

古詩之流也先王采焉以觀乎

風見練竹漪然則如衛地淇澳之

崖見在其傾屋則知秦野西戎之

宅故能居然而辨八方然相如賦

上林而引盧橘夏敷揚雄賦甘泉

槐也而陳五樹青葱班固賦西都而數以

出北自張衡賦西京而述以遊滄若

根如緝如以為潤色若斯之類

匪宮于滋考芝菓木則生非其

壤授之神物則出非其所吟詞

則易為藻飭於義則虛而興

343 342 341 340 339 338 337 336 335 334 333 332

則易為漆飴於義則虛而無
其微且夫玉色無疆雖寶非用彼
其言與駭雖非經而論者莫不
其詠詩其精作者大旨樂為憲
其積習生常有自來矣余既
其思攀二京而賦三都其山川城
其邑則晉之池圖其鳥獸草木則
其驗之方志風謠歌舞各附其俗
其鬼梧長者莫非其舊何則發
其言為詩者詠其所志也外高
其能魁者頌其所見也養物者
其貴依其本贊亭者宜准其實非
其非實覽者奚信且夫任生作百
其所者辨物居方周易所謂聊

第二卷

- 343 非實非實覽者，奚信且夫。任生任生作作實實書書
- 342 貴依其本毛贊事者宜准其實毛。非本
- 341 能賦者頌其所見也。美物者
- 340 言為詩者詠其所志也。外高
- 339 魁梧長者莫振其舊何則發。何則發何則發
- 338 驗之方志風謠歌舞各附其俗
- 337 邑則智之地圖其鳥獸草木則
- 336 思摹思摹二京而賦二都其山川城
- 335 章積習章積習生常有自來矣。余既
- 334 言言詩詩其研精研精作者大言大言為為憲憲
- 333 言無驗言無驗雖雖非經而論者莫不
- 332 微且夫玉卮無玉卮無瑤瑤雖雖寶寶非用非用俊俊

355 354 353 352 351 350 349 348 347 346 345 344

覽者，非實矣信且夫任土作貢，作貢實書
 所者，辨物居之，居之則易，易填，填鄒
 舉，其一隅具體統，歸諸詁訓
 焉
 蜀都賦一首 左太冲
 有西蜀公子者，言於東吳王孫
 曰：蓋聞天以日月為經，地以四海
 為紀，九州星分，萬國錯峙，錯峙崑崙
 有帝皇之宅，河洛為王者之里
 吾子豈立曾聞蜀都之事，欺請
 為左右揚權，而陳之夫蜀都者
 蓋壯壑於上，開國於尺古來
 壘開焉，為門之壘，壘之壘
 三江之雙，壘之壘，壘之壘

355
354
353
352
351
350
349
348
347
346
345
344

雲開而為月為月已玉璽而為字帶
蓋姓基於上世開國於中古意
為左右揚權而疎之夫蜀都者
吾子豈之姓曾姓聞蜀都之事歟請
有帝皇之密河洛為王者之里
為姓紀九玉皇姓分萬國姓錯姓蹄姓喙姓以
自蓋聞天以日月為姓緦地以四海
有西蜀公子者言於東吳王孫
蜀都賦一首 左太冲
寫
擊其一隅擊其擯其輿統歸諸詭訓
所嗜擊物擊居於周易擊所填擊所填擊

367 366 365 364 363 362 361 360 359 358 357 356

靈開而為（下略）
 二江之雙（下略）
 陸所湊並六合而交會為豐蔚
 所感八區而掩謂為於前則
 誇躡捷祥枕（下略）轉交趾經塗研亘
 五十餘里山阜相屬（下略）巖據谷
 崗巖多纒觸石吐雲蔚於蓋豈以
 翠嶽虛巍（下略）我干清霄而
 奔出舒丹氣而為靈龍池（下略）瀑
 竇其隈漏江伏流潰具阿（下略）
 陽谷之楊濤沛若滂沱之灑（下略）
 於是乎平竹綉嶺蘭桂臨崖雲
 披龍目側生披披而繁葉之叢
 以結未實之離（下略）定隆冬而不歇

367 366 365 364 363 362 361 360 359 358 357 356

筆手裏

二江之雙流抗^最眉之重沓水

陸所湊^地銖六合而交會為豐斯爾

所感^也戎^也八區而^也壘^也錫焉於前則

跨^是躡^也捷^也樣^也地^也轉^也交趾^也經塗所^也巨

五千餘里山阜相屬含谿^也據^也谷

崗^也高^也亂^也外^也觸^也石^也吐^也雲^也燦^也盪^也盪^也以

翠^也嶽^也巖^也巍^也以^也我^也于^也青^也骨^也而

卷^也出^也舒^也丹^也氣^也而^也為^也霞^也龍^也池^也瀉^也瀑^也

續^也其^也隈^也瀾^也江^也依^也流^也瀆^也其^也阿^也澗^也若

湯^也谷^也之^也揚^也濤^也滯^也若^也濠^也紀^也之^也涌^也波

於是^也乎^也玳^也竹^也綠^也以^也頌^也蘭^也桂^也臨^也崖^也旁

持^也寵^也自^也側^也生^也勃^也以^也文^也布^也綠^也葉^也之^也華

379

378

377

376

375

374

373

372

371

370

369

368

梳龍目側生披艾布綠葉之華
 結朱實之離離迎降兮而不融
 常幕翠倚孔翠群翔厚象
 競馳白雉朝雄雄夜啼金馬
 馳光而絕歇碧逾忽而曜儀
 夫鸞其間則有帝嚳丹青江珠
 裝莫金汝銀礪符彩彩輝靈
 灼鑠於後則却背華容北指豐
 俞緣以劍閣阻以石門流漢湯
 驚民雷奔聖之天圍即之雲
 屬木物珠品麟亦異樣或藏蛟
 精或連碧玉嘉魚出於丙亢良
 木積於棗谷其樹則有木蘭授

379 378 377 376 375 374 373 372 371 370 369 368

(筆墨)

玉結朱實之離玉結迎降冬而不敗
 常暉暉高高倚倚翠群翠群翔犀象
 竟馳竟白雉白雉朝雛雛猩猩夜啼夜啼金馬
 馳光馳而絕而絕駭駭碧碧鷄鷄儼儼忽忽而曜而曜儼
 火井火井沉沉於於鵝鵝泉泉高高爛爛飛飛燭燭木木
 禾禾嵩嵩其其間間則則有有鼎鼎螭螭丹丹青青江江珠
 振振英英金金沙沙銀銀礫礫行行彩彩飛飛炳炳耀耀麗麗
 灼灼鑠鑠於於後後則則却却背背萃萃客客北北指指崑崑
 崑崑歌歌劍劍閣閣阻阻於於石石門門流流溪溪湯湯
 驚驚第第浪浪雷雷奔奔望望之之天天田田阡阡之之雲雲
 昏昏水水物物殊殊品品鱗鱗介介異異揆揆或或藏藏蛟蛟
 擢擢或或隱隱瑞瑞五五嘉嘉魚魚出出於於丙丙穴穴良良

391

390

389

388

387

386

385

384

383

382

381

380

木植於哀谷其樹則有木蘭授
 挂祀構相振榘擇榘柵坐
 謔於谷底松栢崙榘於山峯宿
 偷舞說長緜廟飛盡特輕霄卷
 和假遺於峻坡陽焉翅翼半高探
 巢營極朝奉靈獸林穴宅奇歎
 寢宿異禽熊羅吃其陽鷗鷺鳩
 晴而乘冷於東則左帶巴中百繼
 所枕外負銅梁客渠幽函要富
 膏腴其中則有巴外巴城雲毒
 推校樊以雜圍滄公盪池嫩煉
 山徑龜龜水泉清龍塔於沮澤
 鷹鳥鼓而興兩舟沙荒巖出其

392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403

山埤龜龜水虜潛龍蟠於沮澤
 鷹鳴鼓而興而丹沙范城出耳
 陔壑房鬱毓被具阜山圖採而
 得道亦奔服而不朽若乃野行入
 並具方風謠尚具武奮之則實
 珠璣之則諭異鏡氣飄中業
 璠玞世於總府於西則石挾昏
 山涌清發川隘以復素歌歌
 車調御草昧木槎影覆空讓
 齊盤踞鴛鴦伏百樂雜廉寒
 午冬履星履履步下下六上
 丰則有青珠寶珠瑤碧皆巨消滅
 豐琛業或着斗科廉並柳液
 在中阿風連進善於蘭華經

雜詩

403 402 401 400 399 398 397 396 395 394 393 392

山栖靈龜水處潛龍龜引子龜文蟠於沮澤

鷹鳥數而無兩丹沙鷹引鳥檜檜出其

寂密房郁密引房被具阜山園採而

得道赤芥眼而不朽何足若乃野

生其奇風謠高其武謠引武奮之則實

濠詭詭引濠之則淪翠鏡鏡引濠氣飄於中葉

踰容世於樂府於西則右操操引世崑崙

山涌瀟蕪汀陰以白狼索歌成

章拘野草昧林叢野野引叢文讓

所殫躄躄引所所伏百藥藥引所誰藜寒

卉冬極異類衆衆引卉夥于何何引夥不覓其

中則有青珠黃環碧塔塔引中名壯壯引中淵成

417 416 415 414 413 412 411 410 409 408 407 406 405 404

豊緑蒙或着丹楨屨並布漚（文義上加）
 在中阿風運進漸於蘭畢（文義上加）
 然飾柯葉斬芭鼓蕙（文義上加）越差若（文義上加）
 莫飄颻神農是膏俞附具（文義上加）封城之內
 追氣窮朱鑄厲痛具封城之內
 別有原阻填銜（文義上加）聖孫博演（文義上加）
 潛沫漫（文義上加）公綿雖溝迤眇散（文義上加）疆理（文義上加）
 錡錯棄（文義上加）被由（文義上加）種稻（文義上加）漬（文義上加）柏渠（文義上加）
 以為雲門灑（文義上加）帶池而為陸澤雖（文義上加）
 星畢之滂池尚有未膏其膏液（文義上加）
 介乃邑居（文義上加）唐縣夫江倚山棟宇（文義上加）
 相望素構（文義上加）榭更有益泉之（文義上加）

（傳）

（未）

415
414
413
412
411
410
409
408
407
406
405
404

懷慶也
縣名也

相望來梓樓不_レ有_レ梓_レ樓連家不_レ有_レ連_レ家有塩泉之

尔乃邑居隱不_レ有_レ隱_レ居鄰夾不_レ有_レ夾_レ鄰傍山棟宇不_レ有_レ傍_レ山_レ棟_レ宇

星畢之滂不_レ有_レ滂_レ星池尚不_レ有_レ池_レ尚有未齋不_レ有_レ未_レ齋其膏液不_レ有_レ其_レ膏_レ液

以為雲門不_レ有_レ雲_レ門瀼瀼不_レ有_レ瀼_レ瀼池而為蔭澤不_レ有_レ池_レ而_レ為_レ蔭_レ澤雖

鑄錯不_レ有_レ鑄_レ錯來搜不_レ有_レ來_レ搜油不_レ有_レ油_レ綆不_レ有_レ綆_レ綆不_レ有_レ綆_レ漢不_レ有_レ漢_レ指渠不_レ有_レ指_レ渠口不_レ有_レ口_レ

潛沫不_レ有_レ潛_レ沫浸不_レ有_レ浸_レ以綿不_レ有_レ以_レ綿維不_レ有_レ維_レ溝不_レ有_レ溝_レ澗不_レ有_レ澗_レ脈不_レ有_レ脈_レ散不_レ有_レ散_レ疆不_レ有_レ疆_レ理不_レ有_レ理_レ

則有原隰不_レ有_レ原_レ隰填不_レ有_レ填_レ行不_レ有_レ行_レ角不_レ有_レ角_レ空不_レ有_レ空_レ孫博不_レ有_レ孫_レ博濱不_レ有_レ濱_レ以不_レ有_レ以_レ

退氣不_レ有_レ退_レ氣耶不_レ有_レ耶_レ味不_レ有_レ味_レ錫不_レ有_レ錫_レ厲不_レ有_レ厲_レ痛不_レ有_レ痛_レ其封城不_レ有_レ其_レ封_レ城之內不_レ有_レ之_レ內

英飄不_レ有_レ英_レ飄颯不_レ有_レ颯_レ神農不_レ有_レ神_レ農是嘗不_レ有_レ是_レ嘗命不_レ有_レ命_レ附不_レ有_レ附_レ且不_レ有_レ且_レ料不_レ有_レ料_レ芳不_レ有_レ芳_レ

紫銅不_レ有_レ紫_レ銅柯不_レ有_レ柯_レ葉不_レ有_レ葉_レ斬不_レ有_レ斬_レ訖不_レ有_レ訖_レ敷不_レ有_レ敷_レ蕙不_レ有_レ蕙_レ蕪不_レ有_レ蕪_レ起不_レ有_レ起_レ落不_レ有_レ落_レ

扶中不_レ有_レ扶_レ中阿不_レ有_レ阿_レ風不_レ有_レ風_レ連不_レ有_レ連_レ迹不_レ有_レ迹_レ憂不_レ有_レ憂_レ於不_レ有_レ於_レ蘭不_レ有_レ蘭_レ軍不_レ有_レ軍_レ紅不_レ有_レ紅_レ絕不_レ有_レ絕_レ

豐綵不_レ有_レ豐_レ綵歲不_レ有_レ歲_レ或不_レ有_レ或_レ著不_レ有_レ著_レ丹不_レ有_レ丹_レ林不_レ有_レ林_レ蔭不_レ有_レ蔭_レ藍不_レ有_レ藍_レ布不_レ有_レ布_レ濱不_レ有_レ濱_レ

難

429

428

427

426

425

424

423

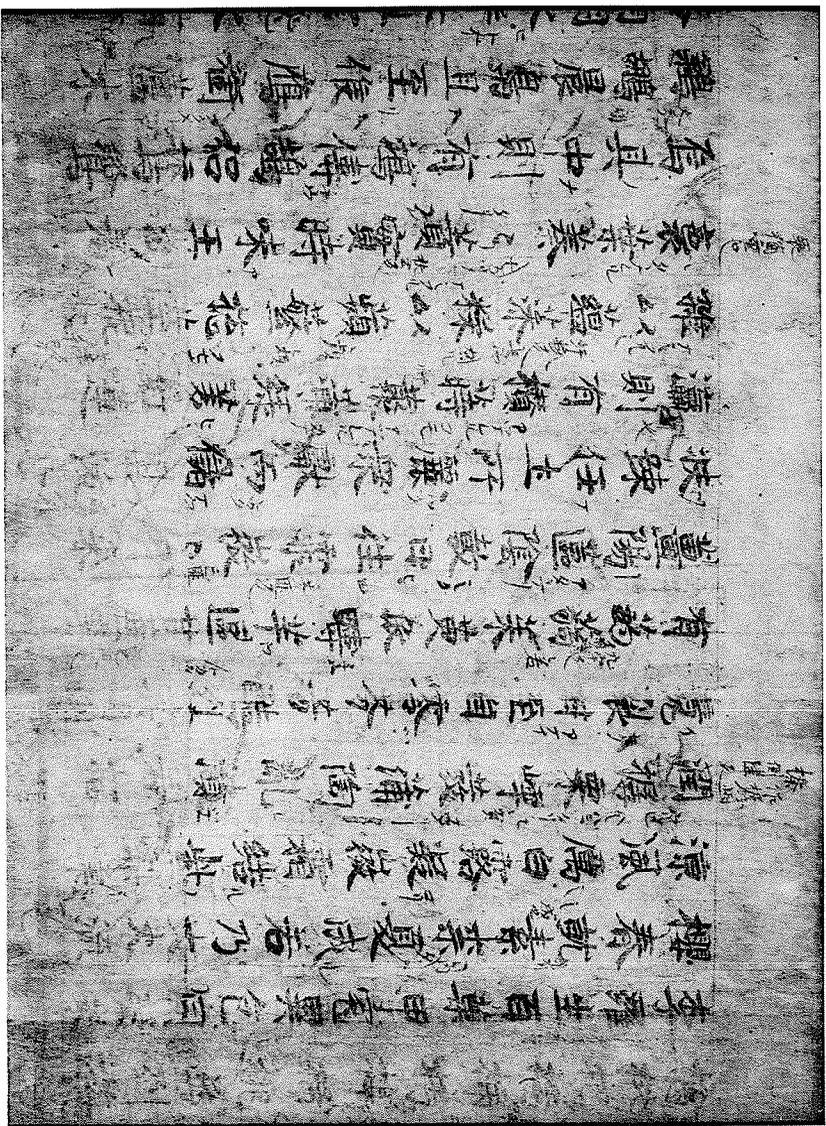
422

421

420

419

418



427 426 425 424 423 422 421 420 419 418 417 416

井穴有橘柚之園則有林

橋枕把橙栢攆掃桃為列梅

李羅生百巢甲窠異乞筒漿朱

櫻春就素崇夏成若乃大流

涼風屬白露凝敬霜結

秦作塔園 潤握栗嶸表蒲陶亂漬若榴 鐸

鏡裂甘至首零芬芳酷烈其圃則

有灼然菜皮瓜躑躅芋區甘糜草

薑陽盧陰故日往來

扶疎任生所麗眾敵而儲其

瀛則有橫時蒙蒲萊麥紅蓮

雅以鹽菜糝以類莖揜基泥

第五選

439

438

437

436

435

434

433

432

431

430

爲具中則有鴻傳鳩招持得餐
 鸚鵡展鳥且至候鷹衝
 落南綯水洋北似雲飛水一角平
 元清潭具深則有白龜人
 玄嶺生茶釀籜籜籜籜籜籜籜籜
 舞老歛次包錦質鞞鞞鞞鞞鞞
 敵瀕中添指馬於是平今
 郭垂而中區既履且崇
 成林闢二元之通門畫立
 廬臺會善言才多堪堪末
 起廬皓陽城之連閣飛觀
 雲中開高軒必臨山列崎
 江內則識殿舞臺其義
 已之圖矣

第六卷

- 428 龜獨龜龜豪豪葉葉秦秦行行黃黃實實時時味味王王公公羞羞
- 429 雉雉其其中中則則有有鴻鴻傳傳鴻鴻侶侶振振鷺鷺鷺鷺
- 430 鷓鴣鷓鴣晨晨鳥鳥且且至至候候中中鷹鷹銜銜蘆蘆木木
- 431 落落南南翔翔水水泮泮北北復復雲雲飛飛水水宿宿暉暉
- 432 吮吮清清涼涼其其深深則則有有白白雲雲飄飄傘傘整整鸞鸞
- 433 玄玄纁纁上上茶茶饒饒鑄鑄助助鑄鑄鑿鑿豐豐劍劍
- 434 鱗鱗老老鱗鱗次次包包錦錦質質執執章章羅羅漢漢
- 435 賦賦瀨瀨中中流流相相息息於於是是半半金金城城石石
- 436 郭郭錡錡而而中中區區既既麗麗且且崇崇實實繁繁
- 437 成成都都闢闢二二九九之之通通門門畫畫方方軌軌之之
- 438 廣廣塗塗營營新新宮宮於於爽爽壇壇擬擬采采明明而而
- 439 起起廬廬結結陽陽城城之之連連閣閣飛飛亂亂樹樹平平

451 450 449 448 447 446 445 444 443 442 441 440

雲中開高軒必臨山列嶺（註）
 江內則設殿爵臺於義席（註）
 化之閭崇祀之闈華開雙（註）
 門洞開金鋪之映玉題相（註）
 輓獨八達里開對出此屋連（註）
 廬方室亦有甲第當衢向（註）
 宇頭敞高門駢馬迹和鍾聲童（註）
 撫琴瑟應揚垂簾專能是（註）
 少城接平具西市塵平會（註）
 送列隨爾重羅隸空平賭（註）
 積織麗星繁有人士女培（註）
 賈貨端寶行縱縱橫異物（註）
 詭奇於八方布有種莖（註）
 梳根不女傳說於木良（註）

雲中開高軒以臨山列綺窓而瞰凡園藝又

440

江內則議殿爵堂武義帟成宣

441

化之闢崇礼之闢華開雙心逐龍又總車

442

門洞開金鋪文映玉題相暉外則

443

軌躅八達里開對出比屋連甍千

444

廡乃室亦有甲第當衢白術擅文

445

宇頭敞高明納野庭扣鐘磬岩堂

446

撫琴瑟匪葛匪差疇能是極文

447

少城接介具西市厘所會萬高之

448

卷之二

測測隨隨百重羅羅謀謀巨巨陣陣銷銷負負山

449

積積纈纈麗麗殿殿皇皇象象都都人人主主女女炫炫眼眼靚靚莊莊

450

實實貨貨帶帶繫繫其其冠冠九九鏤鏤縱縱橫橫異異物物諷諷

451

463

462

461

460

459

458

457

456

455

454

453

452

詭奇於八方有種並懸有
 梳檉取杖傳語於火氣
 首流味於番馬之鄉與舊籍始
 冠帶混并疊敷疊跡於行相頭
 謹謹斷涕則唯臨宇由寢營張
 天則埃燼曜靈闌闌之裏仗巧
 之家百室誰怨機杼相和自錦
 斐成濯色泛皮黃閭比筒翫金
 戶邊俊俊橙橙富卓富卓餘餘塔塔名名公公檀檀山
 川貨貨恒恒松松庭庭蕭蕭鑑鑑刀刀鉞鉞柳柳
 鉤鉤祖祖之之財財雄雄翁翁碧碧皇皇城城三三蜀蜀
 之之豪豪時時來來時時往往卷卷天天茶茶已已嘗嘗傳傳
 附附臺臺劇劇戲戲論論梳梳抵抵掌掌出出身身
 連連騎騎歸歸從從百百內內若若具具舊舊俗俗非非矣矣

463 462 461 460 459 458 457 456 455 454 453 452

世字

第十卷

惠惠記記哥哥於於八八方方布布有有撞撞拳拳麵麵有有

杖杖取取枝枝傳傳節節於於木木夏夏之之邑邑均均

驚驚流流味味於於菴菴鼎鼎之之鄉鄉興興華華雜雜香香

符符盈盈冠冠塔塔混混汗汗思思輟輟買買邱邱披披行行相相傾傾

諠諠譁譁斷斷涕涕則則跪跪坐坐寧寧宙宙啣啣麼麼張張

天天則則埃埃塹塹躍躍靈靈闖闖之之裏裏伎伎巧巧

之之家家百百室室離離房房機機杼杼相相和和且且錦錦

雙雙成成濯濯色色江江波波黃黃閨閨比比笥笥富富龜龜

可可過過保保隆隆富富卓卓獻獻均均名名松松檀檀山山

川川貨貨鍾鍾私私庭庭鐵鐵鑄鑄鉅鉅方方銀銀柳柳

無無程程之之以以財財雄雄輸輸胃胃邊邊城城三三蜀蜀

之之豪豪時時來來時時往往養養艾艾都都邑邑結結傳傳

475 474 473 472 471 470 469 468 467 466 465 464

附堂劇談戲論扼腕力能擲掌出則力能

連騎歸從百病若具養俗冬

煥者吉日良辰置酒高堂以

鄉嘉賓金豐中坐有樽俎陳物富

躡足

公鏢清解以紫鱗羽爵執覽終

竹乃發已姬彈弦漢女擊琴起

西音於促柱歌江上之鞞厲牙

長袖而屢擗因憐以贏合

樽促席引滿相討樂飲今之

醉累月若夫王孫之屬聚之

偷從翁于外巷無居人並來驪子

俱取魚文玄黃異披結駢續芳

487

486

485

484

483

482

481

480

479

478

477

476

西^自瑜金^自得東越王^自津羽^自別聊^自晦
 匪^自匪^自匪^自旬^自宛^自自^自籠^自洗^自鳩^自察^自廓^自
 鷹^自火^自種^自帥^自羅^自紹^自慕^自毛^自群^自陸^自
 離^自羽^自挨^自烏^自白^自翁^自纒^自眉^自揮^自霍^自中^自內^自林^自
 瀟^自瀟^自廣^自廣^自翦^自旌^自塵^自帶^自文^自地^自路^自
 厥^自庸^自志^自未^自慙^自時^自欲^自晒^自足^自鞋^自置^自是^自
 絕^自遠^自出^自雲^自門^自之^自關^自馳^自九^自狐^自之^自塚^自
 經^自三^自陝^自之^自字^自五^自之^自產^自
 懺^自食^自鐵^自之^自獸^自射^自嗟^自赤^自之^自虛^自由^自鴉^自
 軀^自隔^自於^自蔓^自草^自禪^自言^自鳥^自於^自森^自木^自
 夜^自象^自處^自處^自犀^自角^自鳥^自鐵^自翎^自獸^自
 足^自殆^自而^自竭^自來^自相^自與^自第^自名^自涼^自也^自集^自
 于^自江^自川^自識^自木^自客^自張^自艇^自舟^自借^自二^自罪^自
 與^自神^自挂^自登^自背^自星^自船^自下^自殿^自

499

498

497

496

495

494

493

492

491

490

489

488

于江州誠求客集輕舟揚江
 与神遊覺清皇下皇下下
 鵠土浴乳洞清花耀詩感舞
 魚動湯侯騰波滌涌與泥浮
 若雲藻含星高光耀流將餐
 檣者張奔會千泉酌擊貼計
 芳射飲破窟振捉車馬雷
 駭轟闕言武元兩散震數
 百聖之門
 觀曉之際鑿風也有二三為
 世朝亦老乃卓營奇論休價因
 一丘中在一律人埋遠身唱上

488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499

于江別誠水客樣輕舟輕舟媽媽呼呼救救也也

與神造與神造覆覆謂謂匿匿也也屬屬下下高高

揚揚如如潛潛虫虫以以洞洞蕭蕭教教權權謳謳感感譚譚解解也也

第勳陽侯騰波沸涌第勳陽侯騰波沸涌玉具沉浮玉具沉浮

若雲漢含星而光耀若雲漢含星而光耀流將躡流將躡

撩者張奔幕會平原酌醪撩者張奔幕會平原酌醪酌酌

芳躡芳躡飲鄉朝賞揆車馬雷飲鄉朝賞揆車馬雷

駭駭轟轟闕闕若風爪兩散駭轟闕若風爪兩散湧湧數數

百里之尸百里之尸圖圖邑王之所安樂邑王之所安樂

觀聽之所踴躍也觀聽之所踴躍也二三為二三為

世朝市若乃卓犖世朝市若乃卓犖奇譎奇譎體體體體內內

已一經神拔已一經神拔一緯一緯人理遠則一緯人理遠則峴峴骨骨山山

511

510

509

508

507

506

505

504

503

502

501

500

以下十五行
 利重身輕
 利誠可能
 翻字不

511 510 509 508 507 506 505 504 503 502 501 500

之精上為井絡天帝運期而會

昌景福豐財豐豐財而與京錫出長弘

之國國生世空之國長安變化而

非常光見偉志壯國國則江漢

炳靈世載其英蔚若相如嶠若

君平王褒辯舉而秀蒙楊雄含

身身挺生幽思綯道德橋藻藻

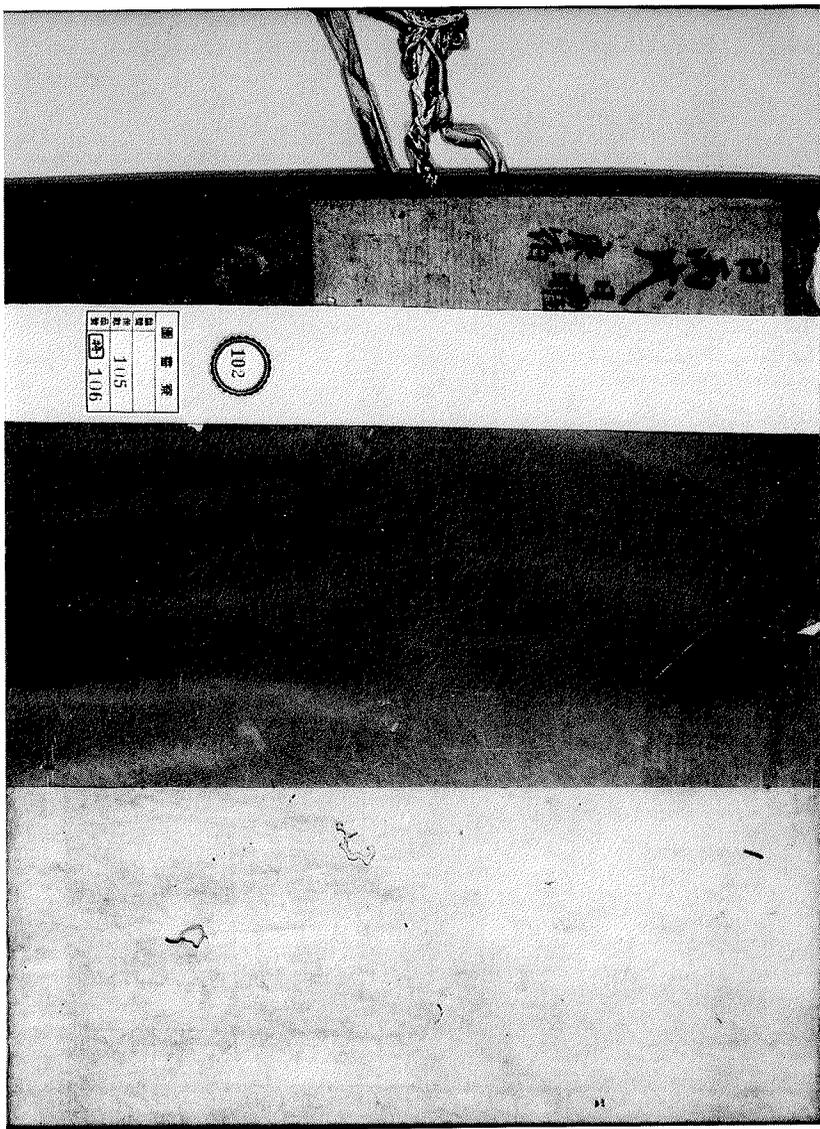
天庭若四海而為儔當當中葉而

增增名名畏畏因因國國者者為為警警生生

作者以為裡也至平國各為塞

因山為郭峻咀咀均均長城豁豁險險

巨方巨方守隘守隘乃未莫向兮



514 513 512

514

513

512

(以上管見記第百二卷終皆)

圖 夏之圖有圖

圖 田此言之天

圖 國和國

未若茲都之

下孰^尚故雖無^有

帝劉宗下^才權而自^形

翻字註

- 2 箚—平ノ声点、及ビ左傍
- 1 个イノ音注(角)
- 2 基—左傍キイ(角)
- 2 散—声点(墨)
- 3 結—左傍ニ返点(角)
- 4 建—付訓、夕ノ下、下ヲヲ補
- 7 角
- 4 辰—右傍シ(角)
- 5 艾—声点(墨)
- 6 鈎—声点(墨)
- 7 臂—右傍井ヨウ(角)
- 7 環—平濁声、左傍シヤウ
- 角 線点あり(朱)
- 7 鑿—声点(墨)
- 8 貳—濁音符(墨) 貳鎧ノ
- 音合(朱)、訓合(墨)
- 8 鎧—去声(朱) 入声(墨)
- 9 旂—線点あり(朱)
- 10 纒—線点あり(朱)
- 10 木—線点あり(朱)
- 10 車—声点(墨)
- 11 穀—右傍コノ(角)
- 11 屋—線点あり(朱)
- 12 引—左傍イレ(角)
- 12 先—去声(角)
- 12 鞆—去声(角)
- 13 猜—左傍セト(角)
- 13 戟—付訓、ナカキホコラ
- 塗抹
- 14 躰—濁音符(墨)
- 14 繡—返点ヲ墨ヲ抹消ス
- 14 虎—上声、右傍コノ(角)
- 15 梢—声点(墨)
- 15 飛—左返点(角)
- 15 蘇—右傍訓リツトヲ削
- 除、シヲ重ネ書ク
- 16 陳—左傍ノフルニ(角)
- 16 巖—平声(角)
- 16 嶽—線点、な(朱)、バ(墨)
- 17 楊—右傍アノ(角)
- 17 揮—屋点ヲ抹消
- 17 建—左傍訓、夕ノ墨滅
- 17 按—付訓(朱)
- 18 列—左返点(角)
- 18 蕭—声点(墨)
- 21 斐—線点あり(朱)、声点(墨)
- 22 鼓(欄外)—声点(墨)
- 24 楯—左傍イ(角)
- 24 燭—左傍(角)
- 24 煬—左返点(角)
- 24 神—声点(墨)
- 26 妃—屋点、迄(墨)、平声(墨)
- 上声(朱)
- 30 蒸—左傍シヨウ(角)
- 32 辯—声点(墨)
- 32 其—右傍朱筆ヲ認ム(角) 欵
- 32 句—声点(墨)
- 34 変—入聲声(角)
- 35 顧—付訓、カノ下、入リヲ補フ(角)
- 35 神—声点(墨)
- 35 具—付訓、夕ノ下、王(角)
- 35 躰—付訓、夕ノ下、外ル(角)
- 35 福—入聲声、右傍コノ(角)

必穰—濁音符(濁)、右傍「」

ナレリ

音注「」連抹消

49 緝—左返点「」(角)

ヤ山(角)、置字ノ線点「」

41 載—付訓「」ノ下「」ハチ

44 爲工—各左返点「」(角)

49 節—声点(濁)、左返点「」(角)

(1) (朱)

ヲ補フ(角)

45 制—左返点「」(角)

50 階—左傍「」(角)

必農—平声(角)

41 合—左返点「」(角)

45 正—左返点「」(角)

50 乘—平声抹消

必膏—平声(角)

41 辟—「」声、右傍「」(角)

45 三多—音合符(濁) 右傍

50 攝—入聲声(角)

必視—左傍「」(角)

41 繼—左返点「」(角)

「」(角)

50 提—左傍「」(角)

必駕—声点(濁)

41 設—右傍「」、左返点「」

必并—右傍「」(角)

50 陪乘攝提—音合符(濁)

必撰—付訓「」ノ下「」(角)

(角)

必夾—声点(濁)、左傍「」

50 運—左返点「」(角)

必籍—右傍「」(角)

41 業—左返点「」(角)

(角)

50 衡—声点(濁)、左返点「」(角)

必伏—声点(濁)、左返点「」

42 叢—初メ「」ヲ「」キ、之

必儲—左傍「」ノ下「」(角)

50 至—宮—各左返点「」(角)

(角)

ヲ削除、叢ト重ネテ「」

必葦—付訓差声「」(角)

51 騶—平聲声、左傍「」(角)

必郊—右傍「」(角)

42 樹—左傍「」(角)

「」(角)

52 虞—平声(角)

必梁—左傍「」(角)

43 撞—置字線点「」(角)

47 消—明—左返点「」(角)

52 决—右傍「」(角)

必盛—左返点「」(角)

42 相—左返点「」(角)

47 掃—霞—左返点「」(角)

52 拾—入聲声、右傍「」(角)

必壘—右傍「」(角)

44 儀—声点(濁)、左返点「」

48 輅—屋点「」ヲ抹消

52 達—付訓「」(角)、左返点「」(角)

必場—右傍「」(角)

(角)

49 鏗—付訓差声「」(角)

53 萌—平声、右傍「」(角)

必躬—屋点「」ト「」上声(濁)

44 曠—平声、左傍「」(角)

49 萃鑽大内—音合符(濁)

54 崇業—各左返点「」(角)

54 濂—左返点「三角」

59 拜—声点(墨)、左返点「二」

61 區—平聲声、左傍「レ」

点「二」「三」「角」

54 饜—左傍「夕」角

角

左返点「角」

64 田—付訓差声「九」_レ「五」

54 貪—平声、右傍「夕」角

59 壽—右傍「レ」角、左返点「二」角

64 威—声点(墨)

67 結—左返点「三角」

54 終—左下傍「レ」角、左返点「二」角

「二」角

63 聞—付訓欄肩注「个」_レ「陰」_レ「从」

68 疾—平声、右傍「レ」角

点「二」角

59 敬—付訓「レ」下「角」

「五」ノ差声アリ

68 營—平声、左返点「二」角

55 誼—声点(墨)

60 儀—平声(角)

63 聞—圈—各左返点「三」「二」角

68 叙和—左返点「三」「二」角

55 會—付訓「レ」(朱)

60 示—左返点「三角」

角

68 鐸—入聲声、左傍「夕」角、左音注初「エ」キト書キ、之ヲ削除、改「テ」夕「レ」ト書ク

56 疚—付訓初「メ」ヤ「レ」ニ「夕」

61 愉—左傍「レ」角、疊字

64 掌—付訓「力」ノ下「七」ヲ

68 坐—右傍「七」角

「レ」ト書キ、「レ」ニ改ム

線点「六」(朱)

補フ角

57 致—酒—各左返点「三」「二」角

61 教—左傍「力」角

64 掌考—左返点「三」「二」角

68 坐—右傍「七」角

角

61 布護—左傍訓「レ」ニ「ホ」

64 戒事—左返点「三」「二」角

68 作—入聲声(角)

57 幢—右傍「夕」角

ト「コ」リノ合点「角」筆ノ

65 是—屋点「墨」

69 節—声点(墨)

58 奉—左返点「三角」

上ニ(墨)筆ヲ重又

65 謂—備—各左返点「三」「二」角

69 以—聲—各左返点「三」「二」角

58 躑—右傍「レ」ヤ「角」

61 羸—右傍「エ」角、左返点「二」角

角

69 戮—声点(墨)、右傍「レ」角

58 叟—上声、左傍「レ」角

「二」角

65 告—右傍「力」角

69 戮—声点(墨)、右傍「レ」角

58 至—右傍「レ」角

61 溢—入聲声、右下傍「レ」

65 備—右下傍「レ」角

70 陳—付訓「レ」(朱)

59 恭—右傍「レ」角

子(角)

66 撫—軒中田—各字左返

70 達—付訓「レ」(朱)

71 麗—線点「リ」(朱)

74 歐—左傍「七」(角)

(角)

81 秉鐵—各左返点「三」(角)

71 翼—右傍「ヨ」(角)

74 解果—左返点「三」(角)

78 蟲—平声、右傍「ム」(角)

81 派—左傍「ム」(角)

72 掩迥—左返点「三」(角)

75 儉—右傍「ム」(角)

78 威—声点(墨)

81 子—右傍「ム」(角)

72 馭—右傍「リ」(角)

75 不彈物—各字左返点「三」(角)

78 振—獨…無—各字返点「三」(角)

83 無臬—各左返点「三」(角)

72 不…遇—各左返点「三」(角)

「三」(角)

「三」(角)

83 礫—右傍「ム」(角)

(角)

76 慕—施舌—各字左返点「三」(角)

79 教—濁音符(墨)

83 剛—平濁声坎、右傍「ム」(角)

72 詭—上声、右傍「リ」(角)

「三」(角)

79 瑣—左傍「ム」(角)

84 輝—付訓初々「ム」(ト書キ「二改ム)

72 遇—返点「朱」、右下傍「ム」(角)

76 教祝—各左返点「三」(角)

79 焉—線点「ム」(朱)、平聲

84 逐—疫—各左返点「三」(角)

夕(角)

76 祝—屋点、左抹消、右付訓「ム」(下「ム」補フ角)

79 聲、左下傍「ム」(角)

84 齋—平声、右傍「ム」(角)

76 毛—訓詁符(朱)

77 懷—鐵—各左返点「三」(角)

81 雛—付訓差声「ム」(ニヤ至至)

85 齋—平声、右傍「ム」(角)

76 升獻—左字間返点「三」(角)

77 懷—鐵—各左返点「三」(角)

「七」(角)

85 池—屋点「ム」、句点抹消

76 膏—左返点「ム」(角)

77 失—嚴—各左返点「三」(角)

81 駭除—左字間返点「三」(角)

85 稍—魅—各左返点「三」(角)

76 膳—膏—各左返点「三」(角)

77 熊—平声(角)

81 勵—去声、右傍「ム」(角)

86 蠟—右傍「ム」(角)

(角)

77 熊—平声(角)

左返点「ム」(角)

86 魅—去声、右傍「ム」(角)

76 膳—右下傍「ム」(角)

77 熊—右傍「ム」(角)

81 方—上声点抹消

86 狂—平声(角)

76 膏—左傍「ム」(角)

78 獲—右傍「ム」(角)

81 相—上声点抹消、付訓差声「ム」(ホ「ム」ト書)

86 軒—地—各左返点「三」(角)

76 極—詭点抹消

78 浸—鐵—各左返点「三」(角)

差声「ム」(ホ「ム」ト書)

86 地—左下傍「ム」(角)

86 膨…良…各左返点「二」

89 畢…入輕声「角」

93 卜征考祥…各字左返点

96 望…左返点「二」

「角」

89 梗…付訓差声「エヤ_全」

「二」「二」「二」

97 墟…右傍「二」

86 囚…左返点「二」

セシムル才「二」

94 楯…右傍「二」

97 慨…付訓「二」上「カ」

87 冷…左傍「二」

90 曩…左傍返点「二」、其ノ

95 軌…上声、右傍「二」

97 俟…風…各左返点「二」

87 溺…付訓差声「才ホ_全」

下「二」

95 急…入輕声、右傍「二」

98 祖…左返点「二」

「全」

91 葦目…各左返点「二」

「角」

99 啓…戸…各左返点「二」

87 溺…黄…各左返点「二」

91 取司…各左返点「二」

95 舒…平声、右傍「二」

99 諾…平輕「角」

「角」

92 内有不躋…各字左返点

96 燠…左傍「二」

99 塾…左傍「二」

87 賊…左傍「二」

「二」「二」「二」

96 着…明…各左返点「二」

99 潛…平声、右傍「二」

87 殘…與…象…各字左返

92 不…右傍線点款「朱」

「角」

99 戸…去声、右傍「二」

点「三」「三」

93 和…付訓「二」

96 黠…付訓「二」

99 響…付訓「二」

88 曩…平声、右傍「二」

93 育…右傍「二」

96 詭符重ナル…入輕声、

100 觀…多餘義…匪…各字左返

88 囚…上声、右傍「二」

93 佞…右傍「二」

右傍「二」

点「三」「三」

88 殮…左返点「二」

93 考…付訓「二」上「カ」

96 防…入輕声、右下傍「二」

101 扈…右傍「二」

88 仲…去声「角」

ヲ補フ「角」

ヨ、左返点「二」

101 瞰…左返点「二」

89 泥…右傍「二」

93 祥…声点「墨」、右傍「二」

96 反柿…各左返点「二」

101 湯…平輕声「角」

89 與…左下傍「二」

「二」

96 回…左傍「二」

102 圓…上声「角」

102 末…規…各左返点「二」

105 騶…平聲、右傍「ハ」角

108 嘗…詭点抹消

112 齊…左返点「二」角

102 以…星点「ミ」抹消

105 虞…與…黃鳴…各字左返点「二」「三」「三」角

109 重…譯…各左返点「二」

113 野…爲…爲事…事…有人…各字左返点「二」「三」「三」「三」角

102 世…去声、右傍「セ」角

105 騰…平声、右傍「ト」角

109 譚…入聲、工「キ」角

113 爲…事…事…字…右傍「ハ」角

103 釋…勞…各左返点「三」角

105 牀…声点「ミ」、右傍「シ」ヤ

110 稽…上声「角」

114 尚…付訓「夕」ノ下「フ」ト「フ」補

103 膺…福…各左返点「三」

105 舞…皇…殖…各字左返点「二」「三」角

110 論…詭点抹消

114 素…撲…字間左返点「角」

103 多…右傍「カ」角

107 圃…聖…唐…各字左返点「二」「三」角

110 遷…邑…各左返点「三」角

114 思…克…已…各字左返点「三」「三」角

103 福…入声、右傍「フ」角

107 豐…付訓「曲」ノ下「カ」ヲ

111 同…般…各左返点「二」

115 足…所…各左返点「二」角

104 然…右傍「シ」角

107 般…星点「ハ」抹消

111 着…詭点抹消、平聲声

116 屏…平聲声、左傍「セ」角

104 瑞…去声、右傍「スイ」角

108 洎…荒…各左返点「二」

111 儉…右傍「ハ」角

116 象…去声「角」

104 備…付訓「シ」ノ下「フ」サ「二」

108 儉…右傍「ハ」角

112 斯…平聲声、右傍「シ」角

117 抵…谷…各左返点「二」「三」角

104 祥…右傍「シ」ヤ「ハ」角

108 丁…平聲声「角」

112 于…登…各左返点「三」角

118 瑱…左傍「フ」角

104 圍…付訓「差」声「フ」金「カ」カ「金」

108 零…諧…掌…各字左返点「二」「三」角

112 封…付訓「シ」朱

119 咸…右傍「ト」角

「ハ」

点「二」「三」角

120 其—右傍レ角

127 踵—武—各左返点二三

130 概—去声、左傍カ角

136 且—線点人角

121 莫—声点墨、左傍メ角

角

131 志反—不覺—無節—離

136 無懼—各左返点二三四

角

127 踵—付訓差声レ至レ全

—各字左返点二三四五六七八九

137 不離—重—各字左返点二三四五六七八九

121 茨—声点墨、左傍ノ角

128 未整値—各左返点二三

二三四五

角

角

角

131 節—声点墨

137 輜—左傍レ角

121 難蔀—各左返点二三角

129 有—疾—各左返点二三

132 戚—國—未學—學—各

138 其—右傍レ角

122 觀—声点墨

角

字左返点二三四五六七八九

138 夫—右傍レ角

122 之—返点抹消

129 疾—返点抹消

132 儻—声点墨

138 君—各左返点二三四五

122 至—去声角

129 不—平濁声角

133 批—不假路—纂—業—

138 鞋—左下傍ト角

122 平レ補入—声点墨

129 究—詳—各左返点二三四

各字左返点二三四五六七八九

139 寒—右傍フ角

123 化—去声角

角

角

139 不—顧—制—各字左返点二三四五六七八九

123 胡—付訓カ力ノ上ナ角

129 詳—右傍ハ井ラ力ナ

133 批—声点墨

角

ヲ補フ角

角

134 翹—右傍ノ角

139 顧—左傍カ人リ角

123 翔—付訓差声カ力ノ上ナ角

130 爲實—各左返点二三角

135 若—右傍レ角

139 珮—付訓カ力ノ下ナヲ補説角

124 從雲—各左返点二三角

130 爲—星点レ至レ全

135 乘奔—各左返点二三四五

139 制—右傍レ角

125 寓—上声、右傍ノ角

130 賓—声点墨

135 見困—且—各字左返点

140 鑿—声点墨

125 輝—平声、字下ノ井角

130 梗—上声、左傍カ角

二三四角

140 途—声点墨、右傍レ、左返

点「角」
144 葉—声点「墨」、左傍「カ」
返点「二」「三」「三」「三」(朱)

140 不變玉—不亂歩—各字
(朱)

左返点「三」「三」「三」「三」(角)
144 不—左傍「セ」(角)

141 藪—右傍「フ」左傍「子」工
145 志—左返点「二」(角)

141 藪—右傍「フ」左傍「子」工
146 勞—輸—財—同—各字
左返点「二」「三」「三」(角)

141 銀—左返点「二」(角)
146 財—星点「至」抹消

142 忍—用財—各字左返点
146 鏡—右傍「セ」(角)

「二」「三」「三」(角)
147 行—右傍「工」(角)

142 忍—右傍「工」(角)
147 雍熙—平聲聲(角)

143 珍—句点墨
147 洪—平聲(角)

143 仕役—畏—盡—各字左
148 執—右傍「工」(角)

返点「二」「三」「三」(角)
148 顧—付訓「カ」下「ヘ」リテ
「二」「三」(角)

143 役—右傍「工」(角)
148 懷—節念—各字左返点
「二」「三」(角)

143 之—線点「ハ」誤リ缺
「二」「三」(角)

144 無—不—各左返点「二」「三」
149 于命怨—見贊—各字左

(角)
149 于命怨—見贊—各字左

144 様—左傍「七」(角)
149 憂—星点「至」抹消

返点「二」「三」「三」「三」(朱)
149 怨—右傍「ウ」(角)
150 舍—九—成議登—各字
左返点「二」「三」「三」「三」(朱)

149 怨—右傍「ウ」(角)
150 舍—九—成議登—各字
151 階章—有被—各字左返
点「二」「三」「三」(角)

150 舍—九—成議登—各字
151 階章—有被—各字左返
152 可—焉—好—各字左返
点「二」「三」「三」(角)

151 階章—有被—各字左返
152 可—焉—好—各字左返
153 勤—付訓差声「至」(角)

151 階章—有被—各字左返
152 可—焉—好—各字左返
153 勤—付訓差声「至」(角)

152 可—焉—好—各字左返
153 勤—付訓差声「至」(角)

152 可—焉—好—各字左返
153 勤—付訓差声「至」(角)

158 裁—声点(還)

返点「三」「三」「角

フ(角)

補説(角)

158 壯—左返点「三」(角)

164 人—右付訓「ト」ト「ク」

167 醉—左返点「三」(角)

172 習—星点「抹消

159 觀—騁—辭雖—以—各

塗抹ス

168 道—畏戒—各字左返点「三」

172 非—星点「抹消

字左返点「三」「三」「四」「三」(角)

164 是所學—各字左返点「三」

「三」「三」(角)

172 迷—付訓「リ」介「上」上「下」

159 辭—返点抹消

「三」「三」(角)

168 誼—右傍ギ「角

ヲ補フ(角)

159 糸—付訓差声「三」三「三」

164 是—付訓初メ「シ」入「シ」ト

168 戒—付訓差声「イ」下「レ」

172 幸—右傍「七」(角)

160 積穽填數—各字左返点

書キ、シニシニ改ム

×「三」(角)

172 見—右傍「レ」、左返点「三」(角)

「三」「三」「三」(角)

164 安所習—各字左返点「三」

168 懼—右傍「オ」(角)

172 指—「上」声(角)

160 置—左傍「レ」ヤ(角)

「三」「三」(角)

168 惘然—付訓初メ「ホ」レ「ク」

173 所聞—各左返点「三」「三」(角)

160 無—左返点「三」(角)

164 飽—右下傍「ハ」(角)

ル、「レ」ト書キ、ホ「レ」タ

164 有微—寡識—各字左返点「三」

161 規—左傍「キ」(角)

165 不知—臭馥—所—入—

ル「ト」ト重ネ書ス

「三」「三」(角)

161 怨—左傍「レ」(角)

不—各字左返点「三」「三」「三」

170 所以爲—失—各字左返

165 在—左返点「三」(角)

161 濟—句点(還)、左付訓差

「三」「三」「三」(角)

点「三」「三」「四」(角)

166 恨—左返点「三」(角)

声「上」(還)、左返点「三」(角)

165 威—「上」声(角)

170 談—左傍「ム」上(角)

166 墳—「平」声、右傍「フ」止(角)

162 志—基—各左返点「三」「三」

166 齊—咬—各左返点「三」「三」

170 失—付訓「レ」ノ上「ウ」上「ラ」

166 不睹—各左返点「三」「三」(角)

(角)

(角)

補説(角)

必擊—東—莫持—各字左

166 疑—付訓「フ」ノ上「ウ」上「補

171 言—付訓「イ」ノ下「フ」上「ラ」

167 美—星点「抹消

177 美得聞一各字左返点「三」角

「三」角

178 尚茲一雖一各字左返点

「三」角

179 敏一左返点「三」角

180 麗一付訓「下」木

「三」角

181 啓一南一各左返点「三」角

角

182 居一陽割一環跨一各字

返点「三」角

182 環一右傍「二」ノ類音注

角

183 爲壇一各左返点「三」角

183 莖一右傍「七」角

183 敬一「上」声、左傍「マ」

角

184 難詳一各左返点「三」角

184 詳一付訓「下」ハヒラ

カヲ補フ角

184 開一右傍「乙」角

184 開一右下傍「カヘ」有

リ角

184 開亞一各左返点「三」角

185 楊一東一各左返点「三」角

角

186 爲壙一涌一後一各字左

返点「三」角

187 盪一左傍「ソ、夕」其ノ下

「夕」角

187 推准引端一各字左返点

「三」角

188 采一「上」声、左傍「七」角

188 璞一左傍「ハ」角

188 隨一「平」声角

189 錯一左傍「カ」角

189 堊一右傍「ア」角

190 碧一右傍「ヘ」角

190 粟一右傍「ヨ」角

191 穀一左傍「カ」角

191 解角一各左返点「三」角

192 耕一右傍「カ」角

192 揚一右傍「ア」

192 揚一「刈」弄一各字左返

点「三」角

192 弄一付訓「フ」上「モ」テア

「フ」補フ角

193 曲一左返点「三」角

194 喇一左傍「ナ」角

194 嗜一左傍「七」角

194 嶺一左傍「リ」角

194 叢一左傍「七」角

194 巖一左傍「ク」木「角

194 噉一「平」声、左傍「ナ」角

195 屹一「字」下「キ」角

195 屹一左傍「ナ」カ「エ」

「ナ」左「ニ」ノ如クアリ、意

味不明

195 含一雪一各左返点「三」角

196 嶺一左傍「リ」角

196 嶺一右傍「リ」ノ「ラ」塗抹

196 豁一「入」声、左傍「ク」角

196 絶一右傍「エ」角

196 鞞一左傍「キ」角

197 隠天一觀一「電」各字左返点

「三」角

197 電一左下傍「ナ」角

198 狐—右傍「ム」角

200 紆—字下「ム」角

二箇アリ、意味不明、
平声、右傍「リ」ヨ、左傍

201 陰—句点抹消

198 限—線点ナリ「ム」

201 菌—左傍「ク」井「ム」角

平声、右傍「リ」ヨ、左傍

207 起—右傍「オ」コ「テ」角

199 行—左傍「エ」ム「ム」角

201 蠶—左傍「ハ」井「ム」角

「ム」角

207 増—右傍「テ」ハ「ム」角

199 曠蕩—各「上」上声角、蕩

201 生—限—各左返点「ム」

204 櫻—声点「墨」

208 哀—左返点「ム」角

ノ線点ナリ「ム」

角

204 桑—右傍「ム」水角

208 冥—左傍「ム」ハ「ム」角

199 塚—右傍「モ」ム「ム」角

201 生—線点ナリ「ム」

204 椰—左傍「ム」角

208 眼—右傍「メ」イ「ム」角

199 坂—「上」声角

201 密溢—右傍「ヒ」キ「ム」工「キ」角

204 柑櫛—右傍「ハ」イ「リ」ヨ「ム」角

208 杏—右傍「エ」ム「ム」角

199 然—字下「ム」角

202 流—隔—無—侈—弗—

205 檉櫛—左傍「ヨ」ム「ム」角

209 森—右傍「ム」ム「ト」イ「ヨ」、カ「ム」

200 截—声点「墨」、右傍「テ」キ

踰—各字左返点「ム」「ム」「ム」

205 嬋—左返点「ム」角

角

ヲ塗抹ス

「ム」「ム」「ム」角

205 媛—右下傍「ム」ム「ム」角

209 尊—右傍「ソ」レ「ソ」レ「ム」角

200 障—声点「墨」

202 間—去声角

206 布—々數—々—各字左返点「ム」「ム」「ム」角

209 刺天—各左返点「ム」「ム」角

200 嚙—右傍「ム」ム「ム」角

202 能—右傍「ア」タ「ハ」ハ「ム」角

206 數—右傍「ム」ハ「ム」角

210 遊—下—各左返点「ム」「ム」角

200 銚—平聲声角

208 擣—付割初「ム」ア「ム」ト「音」

206 菜—右傍「ム」ハ「ム」角

210 穀—声点「墨」

200 擊—「入」聲声、左傍「カ」ク

キ、ア「ム」ニ改ム

206 櫻—右傍「ム」ハ「ム」角

210 櫻—声点「墨」、右傍割初「ム」

角

203 柶櫃—左傍「キ」ム「キ」ム「ム」角

207 合—付割「ム」ア「ム」ノ「ム」ヲ「補」

木「ク」ト「音」キ、其上「ム」ク「ヒ」ヤ

200 錯—右傍「ム」ム「ム」角

204 榼—「ム」ハ「ム」声点「墨」平声ニ

説角

ク「ト」重「ネ」書「ス」、左傍「ム」ハ「ム」ヤ

200 槃—「平」声、左傍「ハ」ム「ム」角

合点、平声点横ニ「ム」点

207 重陰—各返点「ム」「ム」角

ム「ム」角

20 標—平声、左傍「ハ」角

23 縁行—各声点(墨)、右傍

26 密—平声、左傍「ハ」角

29 蛇—平声、右傍「ハ」角

20 縱—左傍「テ」角

訓「ハ」上ノ下ノ踊字欵

26 瀦—右下傍「ハ」角

29 鱒—左傍「ハ」角

20 戲—右下「タ」ハ「ル」角

28 坵坂—右傍「ハ」上ノ角

26 護—左傍「コ」角

22 龜—平声(角)

20 巖—付訓「ノ」下「夕」キ

23 澶—右傍「夕」上ノ角

26 汙—声点(墨)

22 龜—平声、右傍「ハ」角

ヲ補フ(角)

23 陸—「ハ」声(角)

27 溢—右傍「ハ」上ノ角

20 鮫—右傍「カ」角

21 鴉—声点(墨)

23 離—右傍「ハ」角

27 飲—声点(墨)、付訓差声

22 鮫—右傍「カ」角

21 翔—上—各左返点「二」

23 阿—上声、左下傍「ア」角

27 投—付訓「ノ」下「モ」イ「テ」

21 奈蛇—右傍「ハ」上ノ角

(角)

24 靡—読点抹消

ヲ補フ(角)「モ」ム「ク」欵

21 陵—左下「上」角

21 翔—右傍「ハ」左傍「カ」上ノ角

24 茸—濁音符(墨)

28 澈—声点(墨)、読点抹消

21 盧—声点(墨)

21 騰後—平声、右傍「ト」

24 瀆—右傍「ト」上ノ角

28 軋—付訓差声「ハ」上ノ角、

21 時—去声(墨)、上声(朱)

ハ「上」上ノ角

25 澣—声点(墨) 右傍「ハ」上ノ角

28 軋—付訓差声「ハ」上ノ角、

23 莞—左傍「ハ」上ノ角

22 鐘—声点(墨) 右傍「ハ」上ノ角

(角)

左傍「ハ」上ノ角

24 葭—右傍「カ」上ノ角

(角)

25 穴—声点(墨)、左返点「二」

28 屐—去声、左傍「ハ」上ノ角

24 葭—右傍「ハ」上ノ角

22 箠—右傍「キ」上ノ角

(角)

28 滅—左下傍「ハ」上ノ角

24 茆—右傍「ハ」上ノ角

22 箠—左傍「ハ」上ノ角

25 潛—平声、右傍「ハ」上ノ角

29 蝨—平声(角)

24 茆—右傍「ハ」上ノ角

22 箠—字下「セ」上ノ角

26 没—「ハ」上ノ角、右傍「ハ」上ノ角

29 有—蛇—各左返点「二」

22 榮—右傍「ハ」上ノ角

23 鉦—右傍「ハ」上ノ角

(角)

(角)

25 葩—句点(墨)、右傍「ハ」上ノ角

226 鏡—声点(墨)、左傍「コ」

227 脈—右傍「ハ」

不能

228 蔚—右傍「フ」

(角)

226 鷗—左傍「エ」

229 膝—左傍「イ」

230 薑—右傍「ヤ」

231 吹—付訓「ノ」上「ハ」補説(角)

226 搗—平声(角)

音注款

232 藜—付訓初メ「ニ」

232 蔚—平声、左傍「フ」

226 鷗—声点(墨)

230 輿—声点抹消

傍「キ」

233 航—右傍「フ」

227 鷗—右傍「ハ」

230 渚—左傍「ラ」

234 芋—左傍「ク」

240 箱—右傍「フ」

227 嚶—右傍「ア」

230 篠—付訓「上」イ「ラ」

235 櫻—右傍「ハ」

241 藜—声点(墨)、音注略又如字

227 澹—「上」声(墨)

補説(角)

236 樽—付訓初メ「ニ」

款

左傍「エ」

230 爲—各左返点「ニ」

書シ、「ニ」塗抹ス

242 箭—付訓初メ「ム」ナト書

227 隨波—右傍「ナ」

230 漚—左下傍「カ」

236 棗—右傍「セ」

キ、「カ」ムナト訂ス

返点「ニ」

232 釘—右傍「ク」

237 榴—右傍「フ」

243 悲—右傍「ラ」

228 寶—右傍「ト」

232 釘—右傍「ク」

238 櫻—濁音符(墨)、平濁声

243 蕪—右傍「フ」

228 浸—付訓「下」

233 與—疊字線点「リ」

239 欵(「カ」)、左傍「ヤ」

244 薑—右傍「ヤ」

左返点「ニ」

233 與—疊字線点「リ」

240 鄧—右傍「ト」

245 醜—右傍「イ」

228 彼—左傍「ハ」

234 藪—声点(墨)

237 薜—左傍「ヘ」

244 驟—平声(角)

228 箱—字下「フ」

234 荷—左傍「セ」

237 薺—声点(墨)

244 款—声点(墨)、付訓差声「フ」

七九五「フ」

244 浮—右傍「フ」角

248 琢—声点(墨)、左傍「ク」

字左返点「ク」「ク」「ク」「ク」「ク」

249 連網躍野—各字左返点「ク」「ク」「ク」

244 蠟—付訓差声「キ」ノ七至九、七至七、右傍「キ」角

「ク」角

「ク」角

「ク」角

244 浮蠟—刻合符抹消

248 狎搗—各声点(墨)

252 違—付訓「フ」ノ上「カ」ラ

248 服—付訓「シ」(朱)

245 酎—声点(墨)

249 媚—去声、右傍「ヒ」

補説(角)

248 駢—入声(角)

245 弘宗綏接—各字左返点

249 巾—平聲声(角)

252 彈—付訓「シ」(朱)

248 驛—右傍「キ」(角)

246 以—右傍「ハ」(角)

249 鮮—右傍「セ」(角)

253 增哀—各左返点「ク」「ク」

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

247 搦—右傍「ハ」(角)

250 雜錯—右傍「フ」(角)

253 客—音読符(朱)

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

247 讓—付訓「シ」(朱)

251 受爵儂醜—各字左返点

253 賦—歸—各左返点「ク」「ク」

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

247 堂—各左返点「ク」「ク」

251 傳—付訓「フ」ノ上「ツ」ヲ

角

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

248 琅玕—各「平」平聲声(角)

補フ(角)

254 稱—声点(墨)

歟

248 充—方—各左返点「ク」「ク」

251 躑—右傍「シ」ヤ「ハ」(角)

254 歎—右傍「ク」(角)

249 連—平声(角)

248 交—付訓「ハリ」ノ上「フ」シ

251 交—付訓「ハリ」ノ上「フ」シ

254 歎—声点(墨)

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

248 靴—右傍「ク」(角)

251 靴—右傍「ク」(角)

254 歎—声点(墨)

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

248 充—方—各左返点「ク」「ク」

251 交—付訓「ハリ」ノ上「フ」シ

254 歎—声点(墨)

249 便—付訓初メ「ニ」ハ「ト」書キ「ク」

248 彫—平声、右傍「ヤ」(角)

251 師禮无違彈琴撤籥—各

256 靴—右傍「ア」(角)

248 也—見セ消チ符号(朱)

引着ー見せ消ち符号(朱)

合点(墨)

〔朱〕

引權ー声点(墨)、付訓〔朱〕

引奉ー声点(墨)

引藏蕪ー傍訓〔シナハ四款

引生ー線点(墨)

引為門ー為ノ付訓〔朱〕

引偉ー句点抹消

星点〔墨〕

引寶ー線点(墨)

引阻ー星点〔抹消

引崇ー此ノ字下蠹損、〔下カ〕崔

引駿ー声点(墨)、付訓初メ

引行ー左傍訓初メトト

引紛ー返点抹消

引、付訓ノ才ホイナレ

引イト書キ、其ノ上ニ

書キ、个ニ訂ス

引驚ー星点〔抹消、詭点朱ニ

見工

引井ト重エ書ス、疊字

引舉ー付訓〔朱〕

テ抹消歟

引敬ー疊字線点(朱)

引左傍ノ此塗抹

引常ー訓詁符(朱)

引蓋ー星点〔抹消

引允蒸温良ー右傍ニツ

引乘ー声点(墨)

引圖ー詭点(墨)、返点抹消

引敬ー線点(朱)

□〔因〕ノ付訓見工

引枝ー付訓差声〔工〕分

引驗ー付訓〔朱〕、〔ノ〕上

引裁ー疊字線点(朱)

引言ー付訓ゴトノ下汚損

引子ー線点(朱)

引痕アリ、意味不明

引出ー句点抹消

引草ー声点(墨)

引流ー線点(朱)

引魁ー声点(墨)

引流ー付訓〔朱〕

引柳ー反切注於ノ下字破

引倚ー疊字線点(朱)

引土ー音詭符(朱)

引汨ー線点(朱)

損ノ為ニ不明

引欄肩注樞也江中納言破

引頁ー詭点抹消、句点及

引沛ー線点(朱)

引捷ー声点(墨)

申也ハ原本一行ニ書ク

引合点(墨)

引菌ー付訓ノ井ノ右横ニ

引長ー付訓〔朱〕

引陳ー付訓〔朱〕

引所著ー所ノ線点(朱)

アリ

引也ー見せ消ち符号(朱)

引稱ー付訓〔朱〕

引方ー声点並ビニ詭点(墨)

引荔ー声点(墨)

引焉ー見せ消ち符号(朱)

引孝ー若ノ誤字歟、星点

引里ー訓詁符(朱)

引簾ー声点(墨)

371 忽而一西ノ声点(墨)

388 横一付訓(上)存疑、九

塗抹、音合符(朱)ノ上二

(墨)ヲ抹消

374 礫一声点(墨)

条本(上)ノ訓アリ

更ニ墨ヲ重ネル、眼ノ

必疎一線点(上)ヲ(朱)

375 鎌一星点(上)墨

390 雲一声点(墨)

星点(上)ヲ抹消

必蕭一詭点抹消

376 縁以一以ノ付訓(上)朱

391 植一星点(上)抹消

44 山一訓詁符(朱)、(上)ノ

必羞一付訓(上)ノ、(上)ノ上二(ア

376 湯一声点(墨)

394 阪一星点(上)抹消

如キ墨痕アリ、意味不

明、意味不明

377 圃一詭点抹消

394 郁一声点(墨)

明

378 物一星点(上)墨、詭点抹消

394 鏡一声点(墨)

46 園一訓詁符(朱)

431 雲一詭点(墨)

消

395 服一付訓(上)朱

47 橙一声点(墨)

433 懶一声点(墨)

378 異一線点(上)墨

397 飄一付訓(上)朱

48 生一右下傍ニ圈点アリ

433 上(上)声抹消、去声(墨)

378 蠟一声点(墨)

398 樂一声点(墨)

意味不明

435 且一詭点抹消

378 檄一句点(墨)

400 讓一上濁去両声(墨)

40 風一詭点ノ位置ニ、墨

436 實一詭点抹消

378 榎一声点(墨)

405 莠一星点(上)抹消

ノ(上)印アリ、意味不明

441 江一声点(墨)

378 宿一右傍訓(上)ノ、(上)ノ

407 緜一詭点抹消

40 烈一線点(上)ヲ(朱)

444 出(上)線点(上)ヲ(朱)

抹消

410 脉一声点(墨)

43 莢一宇ノ上汚損アリ

444 屋一訓詁符(朱)

378 鴉一濁点(朱)

412 門一詭点(墨)

43 區一声点(墨)

445 衢一訓詁符(朱)

378 鴉一左付訓(上)ヲ抹消

413 有(上)見セ消(上)符号(朱)

43 霏一平声ヲ抹消

447 亞一付訓差声(上)全(上)意

378 吟一声点(墨)

414 隱賑一付訓(上)力(上)ト(上)

43 徽一線点(上)ヲ(朱)、平声

448 市一声点(墨)

452 布一訓読符(朱)

476 期一声点(墨)

489 鮒一声点(墨)

454 馬一濁音符(墨)

477 匪日一傍訓(二毛ノ上)

495 間一付訓差声(七毛全)

455 并一声点(墨)

二ハアリ、意味不明

リ

458 和一読点抹消

477 籠一屋点(墨)、左傍訓

495 雨一読点(墨)

459 斐一付訓差声(七毛全)

オクヲナ及ビ右傍訓(カ)

498 奇一付訓(カ)及ビ音注(七毛)

460 侈一疊字屋点(七毛全)

止ラ塗抹

アリ、不審

460 均一反切注存疑、集注

477 踏一付訓(木夕)抹消

498 儻一付訓(アヤ)ヤ(七毛)塗抹

本所引音次「カ悦反ト見

477 中一声点(墨)

499 緯一線点(七毛)

ユ

461 欄眉注差声(七毛全)

484 撤一付訓差声(七毛全)

501 隘一付訓差声(七毛全)

「七毛全」

485 氓一濁音符(墨)

461 鐵一付訓差声(七毛全)

488 齒一訓読符(朱)

464 論一付訓(七毛)

486 癡一右傍訓(ト)ツツトア

466 酒一付訓(七毛)

リ、トハ(七毛)歌

471 喬一疊字線点(七毛)

487 足一訓読符(朱)

476 朔一斯ノ字下墨ノ圈点、
489 釣一付訓(ツリ)モチト(七毛)

意味不明、

ノ上(七毛)重ネル

昭和十七年に西園寺家より、宮内庁書陵部に献上された、西園寺家累代の家記「管見記」全百五軸の形状は、大半が具注曆・消息・懐紙等を翻して、その紙背を利用して書写されたものである。このうち、第二百二卷「後宇多院御灌頂記」(延慶元年正月廿六日廿七日隆長卿記)及び第一百五卷「室町殿春日社参詣参仕公卿殿上人諸大夫衣文事」(明德二年九月十五―廿日記)の両軸の裏文書は、「文選」無注本卷二である。第一百五軸の表文書の年紀が明德二年であるため、当然書写も室町初期と比定されるのが普通であるが、背記の「文選」断卷は更に遡る時代の書写に係るものと見做される(通常、本資料の如き漢籍が紙背文書となることは稀で、逆の場合が多く、従つて裏文書の方が後筆であることが常態であるが、本資料は前記の如く大量の反故の一部に紛れて紙背を利用されたものである)。しかしながら、この両卷の「文選」断卷はともに書写年代を明らかにする識語等の明徴を欠いている。第二百二卷の紙背文書には、一部日野俊光加点の「白氏文集」卷十六の断卷が混じており奥に「病中見合菅家証本重移点 前黄門郎俊光(花押)」の識語がある。俊光の官銜に照せば、この「文集」断卷は鎌倉末期(正安より文保の砌)の加点であると推考される。しかして「文選」断卷は、この「文集」断卷に比し更に古色を呈し、後述の如く書写は院政初期を降らぬものと推定せられる(小林芳規博士の認定による)。

文選無注三十卷本の残卷・残編としては敦煌本の卷第廿五「史論・史述贊」、卷第廿三「三月三日曲水詩序・王文憲集序一首」の残編、本邦伝存のものとして上野氏儲藏卷第一残卷、東寺観智院旧藏卷第廿六残卷、著名なところでは東山御文庫蔵九条家本全廿二卷、及び猿投神社藏卷第一(二種)、求古楼旧藏卷第三などが知られている。就中、九条家本の一部、及び猿投本の弘安五年書写本が最古のものとして知られるが、本資料はこれらに比肩しそれを溯り得るものである。かつ最近時雨亭文庫の秘庫より見出された菅家本卷第二との関係が最も注目されるところである。茲に宮内庁書陵部の允許を得て、影印と翻刻をなすに当り聊かその解題を叙べる。

本書の書誌の概要を記せば、凡そ以下の如くである。第二百二・第一百五卷の形状は「管見記」の僚卷と同じく、浅葱鼠無文の鳥の子襦紙軸装で、八双は竹、軸は八角の檜材を用い、紐は緑と白とで編める真田平紐を用いる。見返しは楮の素紙。

料紙は両軸ともに楮紙であるが、第二百二巻は前記の如く紙質を異にする。「白氏文集」断卷を混える⁽⁴⁾。紙背文書は反古紙として裏面が使用せられたものである故、装幀に際し卷子本は天地を截断されるのが常であるが、本書もまた紙高廿七糎で天地に切損を被り、紙端の文字をままた失っているのは遺憾である。各紙の長さは約四九糎前後、第二百二巻は十九紙継ぎ(うち第六紙迄は「白氏文集」断卷)、第二百五巻は十二紙継ぎである。薄墨で罫を画し、界高廿二糎、界幅二・五糎、天地に切損があるが欄眉余白五糎、欄脚余白一・八糎を残す。一行十三字前後を収める。第二百二巻には全紙裏打が施され、訓点及び角筆点の判読を著しく困難ならしめている。第二百二巻末尾の十五行は殆ど解読不能である。

次に内容であるが、両軸は順序を倒しており、これを正すならば第二百五巻の断卷は「東京賦」の「(夫子)者、乃整法服、正冕帶」より、「南都賦」の「微眺流睇、蛾眉連嬈」に至る二五九行を存し、間に爛脱は存しない。第二百二巻の初行はすなわち第二百五巻末行に続く「於是齊僮唱兮列趙女」より、「蜀都賦」の末尾「猶未若炫都之(無量也)」に至る二五五行を存し、これにも中間の欠失等は存しない。蓋し、この両軸に亘る断卷はもと一具の巻第二を分割し反故したものであろう。この点については更に次の如くの興味深い事実を指摘することができる。

九条家本「巻二賦乙京都中」に収める所は、「東京賦・南都賦・三都賦序・蜀都賦」の諸編である。これによつて勘える⁽⁵⁾と本書(即ち第二百五巻の巻首)には猶「東京賦」の半過が接統していたものかと想像されよう。ところが前述の時雨亭文庫襲藏の菅家本巻第二には「自東京賦半過到蜀都賦終 昔在公筆」と見えて、⁽⁶⁾適菅家本にあつては本書と同じく、「東京賦」の半過を巻首としてゐることが知られる。通行の有注六十巻本は無注冊巻本の巻数を二倍にしたもので、六十巻本の二巻分に収められる作品が冊巻本の各一巻分に相当するものと考えられ、冊巻本の巻第二は六十巻本の巻第三と四の作品を収載する九条家本の作品分属の形が正しいとも見做される(本書の第一八〇行の欄眉に見える「注四」の文字は、有注六十巻本に於てこの「南都賦」以下が巻第四に分載されることを意味しよう)。しかしながら、菅家本に於ける作品分属の仕方と本書の一致は、古く当時の博士家に於ける無注冊巻本の各巻の作品分属のあり方に区別のあつたことを考えさせる。恐らく巻第二の

作品分属は式家本では「東京賦」冒頭から、菅家本では「東京賦」の半過（未公開の時雨亭文庫本の巻首が本書と同じ）（夫子）者、乃整法服」に始まるか否かは知るに由ない）からという区別があつたものであろう。かように考えるならば、本書に於て欠失しているのは装禎の際に剪出されたと覺しい「蜀都賦」大尾の「無量也」の三字のみで、ほぼ完全に無注冊巻本（菅家本）巻第二の内容を具備していることにならう。

本書の本文を検して容易に気付かれるのは、唐の太宗の名諱である「世」「民」の闕筆が認められることである。但し、「治」「旦」の字は未だ筆を闕かない。従つて太宗の在世中に渡つて来た唐初鈔本の重鈔本かとも考えられ、書法に宿る謹嚴さも亦このことを証しているように見受けられる。

無注三十巻本は零碎な残編をも含めれば、十余種の旧鈔本が存すること既述の如くであるが、本書と対校可能なものは九条家本のみである（時雨亭文庫本との關係が最も注目されるがこれは後日に期するほかない）。⁽⁸⁾ 斯波六郎博士によれば九条家本は、李善注本・李善五臣合注本・五臣注本等の有注本から正文のみを写し出したものではなく、蕭統の編纂せるままの若しくはほぼそれに近き姿の無注冊巻本の旧体裁を保つものと言われている。⁽⁹⁾ 本書もまた、例えば第卅一行の「禴祀」に注して欄眉に「善本作禴祠」と見え、また第六七行の「結徒管」に「結徒為管^{五作}」の異文注記があれば、当然その本文は無注冊巻本の旧を襲えるものであると言えようが、九条家本と比較すると猶多くの相異なる所が存する（比較は三都賦序及び蜀都賦に限り、森野繁夫氏の「文選集注（正文）校勘記」を参考にした。⁽¹⁰⁾ 但し紙幅の關係で必ずしも網羅したものではない。各条先ず本書の行数を示し、本文を掲げ、（）内に九条家本を示す）。

342 贊（讚） 事者宜准其實〔集注本作贊。四部本・尤本・胡本作讚。〕

361 崗（岡） 繼紉（糾） 紛〔集注本作崗。明州本・袁本・四部本作岡。九条本旁記曰糾俗紉。〕

374 輝（暉） 麗灼鑠（爍）〔集注本作暉。各本作暉。集注本所引音決曰鑠舒灼反。〕

391 蠖蜺（徹夷） 山栖（棲）〔集注本作蠖蜺。九条本旁記曰五臣作驚翹。四部本校語同。明州本・袁本作驚翹。校語曰善本

作蠟蟻。又集注本所引音決曰蠟必列反。集注本作栖。四部本・明州本・胡本作棲。」

424 日往霏薇（非薇）〔集注本作菲薇。薇字九条本旁記並四部本校語曰五臣作微。明州本・袁本作微。集注本今案曰音決・五家・陸善經本薇爲微。〕

467 肴橘（核）四陳〔集注本・胡本作橘。九条本・明州本・袁本・四部本作核。四部本校語曰、善本作橘。李善注曰橘與核義同也。〕

483 經三陝（峽）之崢嶸〔各本作峽。集注本所引音決曰陝音洽。劉逵引楊雄蜀都賦曰入謂之狹。江水過其中。〕

488 誠（試）水客樣（纜）輕舟〔集注本作誠。他本皆作試。集注本所引五家說呂向曰誠使也。樣字集注本同。九条本・四部本・尤本・胡本作纜。九条本旁記並四部本校語曰五臣作漾。明州本・袁本作漾。校語曰善本作纜。集注本今案曰五家本樣作漾。〕

右によれば、四二四行「霏」字・四八三行「陝」字の如く、書者偶然の誤りから出たるかと疑われる異文のある反面、三七四行の「鑠」字（「陝」の字も同断であるかも知れぬが）の様に、唐代鈔本に同文に作る例もあつて、卒に九条家本と本書の優劣を論じることができない。概して本書の本文は「集注本」に同じいことは注意されよう。周知の如く「集注本」の正文は李善注本の正文に拠つていられると言われるが、本書と「集注本」の似通いは、本書の本文が李善注本の正文（或は集注本の正文そのもの）を写し出したものであることを意味しない。本書は「集注本」の独自異文とも一致しない所が認められるからである。その例を若干次に掲げる。（一）内に集注本を示す。

334 作者大氏（底）舉爲憲章〔各本作氏。李善注曰音旨。集注本音決曰氏音旨。本書旁記曰音旨。〕

392 龜（元）龜水處〔九条本・四部本・尤本・胡本作龜。九条本旁記曰五臣作元。〕

410 演以潛沫浸（溲）以線雒（絡）〔各本作浸。集注本音決曰浸子鳩反。又李周翰曰溲潤此地也。雒字九条本・明州本・袁本四部本作洛。尤本・胡本作雒。李周翰注曰綿絡皆水名。〕

429 其中則有鴻儔（鸞）鵠侶〔各本作儔。劉逵注曰鴻鵠多群飛。故言儔侶也。〕

492 而光耀（暉）洪流〔各本作耀。〕

493 酌醪酤割芳鮮〔九条本旁記曰善本作清。四部本・尤本・胡本作清。四部本校語曰五臣作醪。李善注引毛詩曰既載清酤。音決曰醪音勞。劉良曰醪酤酒也。〕

僅かな例からではあるが、これら異同の中には「集注本」の誤り（三三四行「底」字、四二九行「疇」字）と見られるものも存するが、本書の誤れる（四一〇行「雒」字）と想われるもの相半ばしている。又、明らかに偶然の誤写と考えられるものも存するが、多くは既に唐以前の旧鈔本に発するかと推定される異文である。前に述べた如く「九条家本」との対校で、本書の本文が屢「集注本」に適うことの事情は、両者がともに唐代鈔本の流れを汲み、それ故に能く蕭統原撰本の旧を全うしているからに他ならない（前掲四九三行「醪」字は、李善本以前の本文を伝えているのであろうか）。かくて本書は零卷ながら蕭統文選の原姿を彷彿とさせる貴重な資料といふことができる。

さて次に本書の本文の傍記に豊富に見える反切注と直音注の性格について言及する。音義書の類としては、周知のことながら「日本國見在書目録」には、

文選音義十李善撰

文選音決十公孫羅撰

文選音義十釋道淹撰

文選音義十三曹憲撰

文選抄韻一

などを録し、「隋書經籍志」に「文選音三卷蕭該撰」、「唐書芸文志」に「許淹文選音十卷」が見える。⁽¹²⁾ 本書の音注も或はこれらの佚書に拠つたかも知れぬが今確める術はない（本書一五六行欄外注の「蕭音裁今案賦宜為裁音吠」は蕭該の音義の佚文か。また「弘決外典鈔」卷一に「曹憲云凡驗事曰案也」の佚文が見える）。しかるに「集注本」に於ける音注と比較した結果、その一部に「文選音決」（公孫羅の「音決」との関係は未だ詳らかでない）に合うものが存する。例えば（音注を便宜〔 〕内に示す）、
400 修々〔昌氏反〕 隆富、卓〔丁角反〕 鄭埒〔力悅反〕 名、公檀〔市戰反〕 山川、貨殖〔市力反〕 私庭、藏鏹〔九兩反〕
鉅萬、鈇〔普歷反〕 槻〔音規〕 兼呈、亦以財雄、翁〔許急反〕 習邊城、
とあるのは、「集注本」所引の「音決」に殆ど同文の音注が存する。

音決修昌氏反、卓丁角反、埒力悅反、檀市戰反、殖市力反、纒居兩反、釶普歷反、槻音規、程音呈、翁許急反、(28ウ) 右の例で一致しないのは「纏」(集注本案語に「音決」の正文は「纏」に作ると言う)の反切上字のみであるが、これも同声字であつて異とするに足りぬ(因に「類聚名義抄」のこの字の反切は「房・兩反」(僧上二二〇)で、「居兩」の誤写と見做される)。

しかしながら、本書の音注全て「音決」に一致するかと見れば、次例の如く齟齬するものも見受けられる。

450 炫〔音縣〕服靚〔音靜〕莊、賈〔音古〕賈〔音茂〕帶〔直例反〕鬻〔以六反又之六反〕、舛〔昌元〕錯縱橫、異物譎詭〔古毀反〕、

この箇所¹³の当該「音決」は左の通りである。

音決炫音縣、靜音淨、賈音古、賈音茂、帶徒結反、鬻以六反、舛昌轉反、從子容反、譎古穴反、詭居毀反、(26ウ)

両者合致しない音決を検討すれば、「靚」(疾政切)の直音注は「淨」が正しく、「靜」は誤写が考えられる。「舛」の反切下字も元韻と獮韻で相異り、「切韻」に「昌亮切」とあれば、「元」は「亮」の訛と見做される。「詭」の反切上字も別字ながら同声である。これに対し「帶」の「直例」去声・「徒結」入声は、夫々「広韻」の「特計」・「徒結」の二切に対応している。本書には例えば四七一行「齋」に「協・以列反」、四四六行「駟」に「協・音悉」の音注が存し、この「帶」字の音注の不一致は叶韻を示すものかと思量される(「齋」・「駟」の協韻注は「集注本」所引「音決」に既に見えているが、「帶」字については前掲の如く協韻の注は無い)。

かように本書の音注は明らかに「音決」を出典すると認定されるが、中に「音決」とは一致しないものも存する。それらは「文選音決」から直截に引かれたもので、集注本所引「音決」と異文があつたものかも知れないとも考えられる(本書の欄眉に第二六行「決爲配字協普廻反善本作配」、第四二行「決作縣」等の「音決」佚文が見られるが、これらは恐らく「集注本」によつて後補されたものであろうが、行款に存する音注は「集注本」を経由したものではあるまい)。また次例の如く「音決」を遡入したとは考え難い音注も存し、上掲の如き隋唐間の文選学者の著述に拠れるかと疑われるものもある。

44興〔音餘〕輦雜沓〔徒力合反〕、冠帶混并〔府盈反〕、累穀〔古鹿反〕疊跡、叛衍相傾、誼譁鼎沸、則噓〔莫江反〕聒

〔音栝〕宇宙、鶯塵張天、則埃壙〔於蓋反〕曜靈、

「集注本」の音注は次の如くである。

音決興音余、冠古翫反、混胡本反、疊音牒、誼虛袁反、譁音花、噓武江反、聒音栝、張丁亮反、壙於蓋反、五家沓徒合反、鶯許驕反、埃音哀、(27ウ)

右によれば、本書は「集注本」の音注を忠実に逐録したのではなく、「并」・「穀」の如く他の出典を想定しなければならぬものも存する。

詮ずるところ、本書の音注は「音決」に拠りつつも、古佚の音義書に拠るかと思わしいものも存し、猶精深にその性格を吟味してみなければなるまい。

古佚書の問題としては欄外の標記に、今日既に佚亡した文選学の書が引用せられていることも注目される。

9 集今案副鈔音爲福

85 鈔曰凌上也銑曰瀆陸曰過也集案鈔凌爲陸

122 集案五家本和下有平字又將作當

これらは、今は伝を失つてしまった「集注本」巻第七の未だ存していた時の記録で、断片と雖も「集注本」に濾過された唐代諸注本の佚文として珍重す可きものである(この標記は「東京賦」「南都賦」に密で、「三都賦序」以下に疎であることは注意される)。同題の標記は觀智院旧藏卷第廿六及び時雨亭文庫藏菅家本卷第二にも認められるが、孰れも断章であるのは惜しまれる。

本書の訓点については加点の際の識語等が一切存せず、何時ごろ何人による加点であるかは不明とするほかはない。一体、本書の本文と全巻に亘る訓点及び音注は、同一人の筆跡でなく、その所用異体仮名字体(凡例参照)に拠れば訓点は院政初期(小林芳規博士の推定による)の加点の如く推定される(音注を加えた人物は加点者と同人かと想われる)。本書の訓点は、

朱筆でヲコト点、声点、墨筆で仮名とヲコト点が付されており、両者は対応している。ヲコト点は、星点は概ね朱点であり、線点は墨点であることを原則としており、附訓は全て墨書されており、この墨仮名には少くとも数手あることが確認されるであろう（例えば第八行目「葩瑤」の附訓「ミルツメ」は稍々肉太で、他の附訓と幾分趣を異にしている）。この他に基だ注目す可きものとして、角筆点が存在している。例えば第二行目「舜蓁」・七行目「膺」・十三行目「穉」に各「ケイキイ」「井ヨウ」「セン」の字音注が、角筆によって記されている（翻刻に当り角筆点を出来る限り拾ったが、第百二巻については裏打ちがあつて肉眼によつて検知すること能わず、割愛せざるを得なかつた）。

以上の如く、本書の訓点は墨筆によるもの、朱筆及び角筆の計三種である。このうち角筆は専ら音訓注・補読・返点に用いられ、例えば第四十行目「疆場」に「キヤウエキ」の角筆の字音注が存するが、これを更に後筆墨書（稍々肉太）によつて字に起していることを参稽すると、角筆及び稍々肉太の墨訓は学習者が、もとから加えられてあつた訓点に、二次的に附加したものと思量される。

本書所用の異体仮名字体及びヲコト点は、凡例に帰納して掲げた。ヲコト点に関して、星点は問題が無い。線点にはいくつかの特長が有り、所謂築島裕博士の提唱される「古紀伝点」と推定される。紀伝点の古体については未だ審らかでない現在、院政期のヲコト点の例として、この方面の研究に資する所もあろうかと考へる。

本書の訓法が何家の訓法に基づくものか、最も関心の寄せられる所であるが、識語等の明徴を欠く。纔かに正慶元年藤原師英の識語を有つ九条家本巻第二との訓法の比較に拠つて、聊かの手懸りが得られるであろう。⁽¹⁴⁾

周知の如く、九条家本は実際には式家の正慶——康永年次の写点本を、南北朝期に重写したものであり、更にその淵源を辿れば、式家本来の家説に、菅・江両家の訓説を校合したものと⁽¹⁵⁾言われている。このような渾淆した訓説から、各博士家の訓説を類別することは、極めて至難なことと言わねばならない。他に孰れかの博士家の証本があれば（現に菅家本即ち寛喜二年菅原在公書写本が存するが、前述の如くこれを披閲することは許されない）甚だ好都合であるが、そのようなものを

知らない。

ここに武家の訓法を伝える別の資料が存する。「三教指帰」の現存最古の注釈書として知られる式家敦光の「三教勸注抄」がそれである。(16) 同書には、屢「文選」が引載されており、今その例を本書・九条家本・勸注抄の順に掲げ、三者の訓法を対照してみる。

164 凡・人心是ハシニン所學をフル・體安ハヤス所習をフ。鮑肆のイチクラノ・不知ル其臭クサイ。翫ナラフテナリ其所以の先入ツイリン。

○凡・人心是マナフ所學をフル・體安ハヤス所習をフ。鮑肆のイチクラ不知ことは其臭クサイことをチラハナリ。翫なり其所以に先入ツシ。

○人の心ハシ是ニ所學をル・體安ハス所習を。鮑肆ノ不知ク其臭ノ。翫コトラ其所以ニ先入カ。

169 惘ホレタルコト然シ若醒シサカヤモヒセルアタ朝ツカレタル・罷の夕奪ムハ、レタルカタマシヒ氣カ・褌スルモノ之ノ爲ス者者。

○惘トホレたること然ニ若醒サカヤマヒセルア朝ムハ、レ・罷ムハ、レタルコト夕奪ムハ、レ氣を・褌スル之ノ爲ス者者也。

○惘タルコト然ニ若醒サカヤマヒセル朝罷ツカレタル夕奪ムハ、レ氣ムハ、レタルコト・褌ムハ、レタルコト之ノ爲ス者者。

253 吝マラフトハ賦サニヒタリ醉ワレハ・言歸ナムト云ことを主稱露未晞アルシハ。

○吝賦サニヒタリ醉ワレハ・言歸ナムト云ことを主稱露未晞アルシハ。

○吝賦サニヒタリ醉ワレハ・言歸ナムト云ことを主稱露未晞アルシハ。

401 百藥マラウトハ・灌タリワレカヘナムアルシハ・澁トアツマリ・叢トシ・寒カウハシ・并ナ・冬カウハシ・馥なるクヒ・異クオホシ類ライイアカナ・衆ニより・夥ニより。于サラム何ニより・不ニより育ニより。

文選卷二「管見記」紙背解説

○百藥・灌叢トアツマテ 寒卉・冬馥シ・異類なるク・衆夥クオホシ。于オイテカナニ何不育らんセ。

○百一藥灌一叢ソウトシテ 寒一卉冬一馥シ異類ナル衆一夥ヒオホクオホシヲイチカ于ニ何不育ラムセ。

右の諸例によれば、訓点に繁簡の差があり正確を期し難いが、ほぼ類似した訓法かと思受けられる。⁽¹⁷⁾百六九行目の訓みは「…魄ヲ禡ハレタルムガ〔之〕、爲ル者モノノ若シ」と本書は訓んでいるが、九条家本・勘注抄では誤読しているものと見做される。また「禡」字について、本書に「トラケ」の別訓（合点あり）があり、四百一行目「于」字に附訓とラコト点の二訓が見えるなど微細に見れば小異が存する。この比較から本書も式家の訓法を伝えるかとも思われるが、九条家本と比較すると、猶次に示す相違点がある。

〔則〕の訓法

○本書「トキハ」を承けるに對し、九条家本「コトハ」を承く。

111 奢を改メ儉に即クトキは〔則〕美を合カチへたり〔乎〕（奢りを改メて儉に即クことは〔則〕美を合へたり〔乎〕）

112 登ノホて封クテシ降りて禪スルトキは〔則〕德を齊ヒトシウセリ（登ノホて封クテシ降りて禪することは〔則〕德を齊ヒトセリ〔乎〕）

〔所以〕の訓法

○本書「ユエヲ」と訓み、九条家本「ユエノコトヲ」と訓む。

171 其の談ヲムシヒとスル〔爲〕所ヲ以テを忘レ、其の夸オコリとする〔爲〕所ヲ以テを失フ（其ノ談ヲとスル〔爲〕所ヲ以テを忘レ、其ノ夸オコリとする〔爲〕所ヲ以テを失フ）

其ノ夸オコリとする〔爲〕所ヲ以テを失フ）

〔況〕の訓法

○「イハムヤ…ヲヤ」と訓み、「イハムヤ…ヤ」に読む。

133 況カラムヤ帝業を纂ツク（テ）而テて天位を輕カラムスルヲヤ（況カラムヤ）帝業を纂ツク（テ）而テて天位を輕カラムムヤ）

157 況(ヤ)初(メ)甚^{ハナハ}夕^{ツカ}泰ナルニ〔於〕制セラル、ヲヤ(別訓に「制シテハ」がある)〔況(ヤ)初(メ)〔於〕甚^ユ夕泰なるに制らるルヤ)

「者」の訓法

○本書は「モノ」と訓み、九条家本不読とする。

138 夫(レ)君たる人の者は夫(レ)君たる人には〔者〕

341 詩とする〔爲〕者は〔詩とする〔爲〕ことは〔者〕

「格助詞の用法」

○本書「ヲ」格に訓むところ、九条家本「ニ」格に訓む。

19 旆^{ハタ}已に〔乎〕郊^{メク}眇を回りヌ(郊^{メク}眇ニ)

38 帝^{セキ}一^{セキ}藉の〔之〕千^{フサ}一^{フサ}畝を脩ム(千^{フサ}一^{フサ}畝に)

「音便型」

28 四^{ヨロコム}靈戀^{ヨロコム}て〔而〕(戀^{ヨロコム}て〔而〕)

26 然^{タフト}て後に上^{タフト}帝を〔於〕明堂に宗^{タフト}ヒ(然後に上帝を〔於〕明堂に宗^{タフト}て)

75 罽^{アミ}を解^{トキ}麟^{ハナ}を放^{アミ}ツ(罽^{アミ}を解^{トキ}て麟^{ハナ}を放^{アミ}ツ)

また、本書の如き紀伝点を加点する漢籍に関しては、濁音符の使用状況から何家の系統の資料かを判定することができ、遺憾ながら本書には濁音符は極めて稀れで、僅かに

236 穰^{シヤウ}而^{タウ}羊^{タウ}橙^{タウ}除^{タウ}耕^{タウ}反^{タウ}

386 鷓^{シヤウ}鴒^{シヤウ}魚^{シヤウ}角^{シヤウ}

等の例がある。この型からは、本書は菅家本かとも考えられ、訓法の特色も菅家本の特徴に適うようである。「者」を不読と

しないなど、尚疑問は残るが⁽¹⁸⁾。

菅家本ではないかとは、既に本書の作品分属から推定したところである。本書第三百廿六行の欄外注に、「槐也江中納言被申也」(玉樹の語に対する注)とあり、これは「江談抄」に見える「江家私記」の記事に一致している(江家の「文選」訓説を指す)。

又問云、文選三都賦序云、楊雄賦甘泉、陳玉樹青葱云々、則所賦無實也、而坤元錄云、甘泉宮有玉樹、楊雄所賦是也、其義如何、被答云、此書籍相違常事耳、但玉樹者何樹乎、僕答曰、不知、被命云、玉樹者槐也、是江家私記也、(醍醐寺本水言抄24ウ)

この注記があることは、却って本書が江家の資料でないことを証しているよう。

更に本書には平安初期に於ける大学寮の師の講説「師説」が残存していることが認められ、かかる由緒深い「師説」を伝承していることこそ、何よりも菅家本の証拠である。⁽¹⁹⁾ 例えば、字句校異に関するものとして、

98 師説間字異本

122 集案五家本和下有平字又將作當師説平字異本

の欄外注が見える。この「異本」の語に注目すれば、或は校合に用いた本の注記が適残ったかとも疑われよう。ところが訓説についても、四百廿一行の「罇發」に「音貪 エメリ」の訓注が見えるが、「和名抄」(廿卷本)に、

栗刺^{罇發} 文選蜀都賦云榛栗罇發^{罇音呼亞反罇發師說惠女利} (十卷本に「上音呼亞反師說惠米利」)

とあって、この訓が「師説」であると知れる。同様の例は、八二行の「俛子」の訓注「之忍反 ノコワラへ」について、同じく「和名抄」に次の記述がある。

童^{俛子} 禮記注云童^{徒紅反} 和良波 未冠之稱也文選東京賦注云俛子^{俛音之忍反} 童男童女也(真福寺本和名類聚抄12ウ)

以上は孤証に過ぎぬものであるが、本書に「師説」が残存することの証左である。

「師説」に関連して、本書にはまた声点付きの和訓が存する（その多くは「類聚名義抄」に同訓を検索できる）。漢籍の和訓に差された声点の機能については、それが「師説」やそれに準ずる平安初期の典拠ある訓法を明示する（或は由緒ある古訓を伝えるための）用を果していることが判っている。⁽²⁰⁾ 本書の声点付き和訓の性格も正しく同じものと考えられる。(一) 内は観智院本「類聚名義抄」。

46 鞞ヤ、シリソク（上上平上上〇）〔鞞ヤ、シリソク（上上平平上濁平）僧中91〕

49 鏗ツク（上平）〔鏗ツク（上平）僧上133〕

153 剿ツクシ（上上平）〔剿^{キヌ}ツクス（上〇〇）僧上81〕

159 系ツク（上上）〔系ツク付 法中110〕

168 戒イマシメ（〇〇上上）〔戒イマシム（平平上平）僧中42〕

244 醪敷サカアフラ（上上上上〇）〔醪敷サカアフラ（上上上上濁平）僧下56〕

244 浮蟻キノサカキサ、（〇〇上上上上〇）〔酒蟻サカキサ、 僧下25〕

かように本書の和訓に平安初期の「師説」が投影しているとすれば、翻って前述の行款に見える漢字音注も、恐らくは大学寮に於ける音博士等の「師説」を伝えていると想像することができよう。

以上なお多くの疑問と躊躇いを残しながら、本書が菅家訓点資料であることの情況証拠を幾つか挙げてみた。本書によって清公・是善以来の菅家累代の人々の「文選学」の一斑を知ることができようかと思う。精審を欠く論で意に満たぬが、今はこの学界未知の資料を、汎く世に紹介することを以て深く慶びとするのみである。

最後に、貴重な典籍の影印・翻刻を御清諾賜った宮内庁書陵部に対し、深甚なる謝意を表し、あわせて小林芳規先生をはじめ鎌倉時代語研究会の方々に、さまざまの啓沃を蒙ったことを銘記して感謝したい。

注

- (1) 『図書寮典籍解題』(歴史篇)百三十八頁参照。
- (2) 日野俊光は資実曾孫。「公卿補任」に拠れば、「正安三年十月廿四日權中納言辞退、正和五年壬十月十九日任按察使、文保元年六月廿一日任權大納言」の閲歴である。
- (3) 「朝日新聞」昭和五十六年十月廿五日紙上及び『アサヒグラフ』昭和五十七年七月一日発行「冷泉家時雨亭文庫」特集号に紹介記事が載っている。
- (4) 「白氏文集」卷十六の「山居」(983)より、「湖山閑望」(1007)迄を収め、「文集卷第十六」の大尾がある。
- (5) 注3の『アサヒグラフ』所掲の写真に、巻緒にこの文字を記した附札が付いたものが見える。
- (6) 斯波六郎博士「文選諸本の研究」(文選索引第一冊解説)付録「九条家本文選解説」参照。
- (7) 「世」の欠筆は第五百七行、「民」のそれは第七七行にその例を見ることができよう。猶「民」を「人」に改めた例は第五六行に見ゆ。因に第十四行の「虎」字が闕筆となっていることも指摘しておく。
- (8) 該本には次の識語がある。
本云寛治七年癸酉四月乙五日辛亥申二以家秘説點合了」菅原時登」抄了 式部少輔菅在公」以當家秘説讀合礼部二千石訖」翰林主人菅(花押)」奉受秘説訖」藤木光吉(花押)」
- (9) 注6に同じ。
- (10) 森野繁夫博士『文選雜識』第一冊所収。
- (11) 九條道弘氏儲藏「文選集注卷第八」(京都帝國大學文學部景印舊鈔本第七集所収)による。
- (12) 敦煌本「文選音」殘欠(ペリオオ²⁸³³) (敦煌秘籍留真所収)が、現存する唯一の音義書である。
- (13) 「王仁响刊謬補缺切韻」による。
- (14) 卷第二には次の本奥書がある。
 本云「正慶元年大呂五日書寫之了」散位藤原師英」同廿三日寫點墨同勘物了 師英」同夜半朱點畢 師英」
 なお、九条家本の引用は中村宗彦氏『九条家本文選古訓集』第一集・第二集に拠った。
- (15) 小林芳規博士『平安鎌倉漢籍訓讀の國語史的研究』第五章「博士家各家の訓讀法の特徴」第三節参照。
- (16) 敦光自筆の「勘注抄」は存しないが、式家の訓を残存するものと見做して、次の資料を用いた。

○太田次男氏「尊經閣三教勸注抄について」(成田山仏教研究所紀要第五号)

○太田次男氏「平安末写三教指帰敦光注について——解題と編印——」(史学第四十一卷一号)

○正中二年写三教指帰註(覚明註)(天理図書館蔵本)

(17) 本書と式家の訓みが似ている事情として、「文選」については式家独自の訓読態度によらず、菅家の訓読によつてゐるかと考へる。「明衡往来」に菅江両家の証本を借受けたことが見え、事実、九条家本卷十五の奥書によれば、同巻は菅家本であることなど、右の想像を援ける。

(18) 本書には次の例の如く、二訓があつてその一方に合点の附される場合があつて、或は別の家説を校合したものかと疑われる。()内は九条家本の訓。

18 陳ツラナレリ (陳ツラナレリ)

57 息イコフ勤ツトメタルを (息イコフ勤メを)

178 尚マサラム (尚マサラム)

201 密トナカレトナカレ (密トナカレトナカレ)

(19) 「師説」に関しては、注15同書第二章「平安初期の漢籍訓讀語の推定」第六節「訓點資料における師説について」を参照。

(20) 注15同書第二章第五節「漢籍における聲點附の和訓の性格」参照。

補注

「日本国見在書目録」に、「文選鈔」と「文選音決」をともに公孫羅の著作としてゐることと、両書の文選依拠テキストが異なることをめぐり、選学者の間にも、両書の撰者について未だ定説をみない。結論を異にするが、内徴によつて作者を推定したものに、次の論がある。

狩野充徳「文選集注所引音決撰者についての一考察」(『小尾博士^{退休}記念中国文学論集』所収)
森野繁夫・富永一登「文選集注所引『鈔』について」(『日本中国学会報』29集)

補注

藤原師道が惟宗孝言について学んだ文選は三十巻本であったとその日乗に見える（応徳二年十一月廿五日記文）。恐らく師道の使用したテキストは、院政初期加點本の本書の如きものであったろうと推定される。

付記

初校時に、小林芳規先生の校閲を忝くし、数々の不逮を御垂教戴いた。銘記して感謝申し上げます。